

別冊 2

令和 2 年度使用

中学校用教科用図書の 選定に必要な資料

島根県教育委員会

各発行者記号は、次のとおりである。

A	東京書籍	K	帝国書院
B	大日本図書	L	大修館書店
C	教育図書	M	新興出版社啓林館
D	開隆堂出版	N	数研出版
E	学校図書	O	日本文教出版
F	三省堂	P	学研教育みらい
G	教育出版	Q	自由社
H	教育芸術社	R	育鵬社
I	清水書院	S	学び舎
J	光村図書出版		

「選定に必要な資料」の観点は以下のとおりである。

観 点		説 明
1	内容、程度、分量等	記述された内容、程度が、生徒の発達段階に適合しているか。また、分量が適切であるか。
2	教材の選択や構成等	取り上げられた教材の選択や構成は、学習を効果的に進めるために適切なものになっているか。
3	興味・関心への配慮等	生徒が興味・関心をもって学習できるように工夫されているか。
4	教科の特性、県の実態や課題への適合等	各教科の特性が生かされ、島根県の実態や課題に適合しているか。
5	発展的学習、自学自習についての工夫	発展的に学習する手立てや家庭で自学自習できる工夫が盛り込まれているか。
6	その他	観点1～5にあてはまらない内容やその他特筆すべき事項
総括		観点1～5及びその他についての記述や感性を育む要素などを総合したその教科用図書の全体的な特徴等

選 定 に 必 要 な 資 料

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○本編の読み物資料が精選され、資料編は本編と比較し関連付けて読める文章が収められており、発展的な扱いもできるよう工夫されている。</p> <p>○1年「スズメは本当に減っているか」(p.98)、2年「説得力のある提案をしよう」(p.105)など、非連続型テキストの読み方や使い方を扱った学習材を取り入れている。</p>	<p>○本編の「学びの扉」の内容を、巻末基礎編の「学びを支える言葉の力」で詳しく学べ、その後の学習材に付けた力が使えるよう工夫されている。</p> <p>(1年p.70,230)</p> <p>○3年「いつものように新聞が届いた～メディアと東日本大震災」(p.184)など社会的に話題となった事柄と関連する学習材が取り上げられている。</p>	<p>○「書く」の領域では、学習の手順の詳しい説明に合わせ、構成例や報告例、完成例など具体例を示すことで、学習をイメージしやすいよう配慮されている。(1年p.71-78)</p> <p>○「話す・聞く」を青、「書く」を緑、「読む」を橙として、領域ごとに使用する色を決め、内容がわかるようにしている。</p>	<p>○巻頭の折り込みページでは、学習の進め方や1年間の学習の流れを表や図を使って示し、見通しをもって学習に取り組めるように工夫されている。</p> <p>○「ウェビング」などの思考ツールを使って学習を進めたり、資料編で「発想・整理の方法」を紹介したりして情報活用能力を育成するように工夫されている。(1年p.72)</p>	<p>○巻末の基礎編、資料編には、既習事項の確認や練習問題、関連ある読み物等を掲載し、家庭での自主学习にも使えるよう工夫されている。(1年p.229,265)</p> <p>○日常の読書生活に役立つ「読書案内」を設け、学習材の関連図書を紹介したり、資料編で様々な読書活動を取り上げたりしている。(1年p.94,182)</p>	<p>○文法の学習は、1年「単語分類マシ」など、本編で導入を工夫し、基礎編「文法解説」で詳しく学べるようにしている。(p.121,256)</p> <p>○資料編「言葉を広げよう」では、学習した内容に関係ある言葉を集め、語彙を増やす工夫がされている。(1年p.299)</p>	<p>○「てびき」は、付けたい力を「言葉の力」として説明し、付けた力の確認ができるようにしている。巻末には「言葉の力」を整理して表にし、3年間で系統的に学ぶことがわかるよう示されている。</p> <p>○巻頭のカラーページや各単元の扉には、季節感のある写真、四季を味わう言葉や詩歌などを置き、感性を磨く場としている。</p>
E	<p>○関連する複数の文学的文章で単元を構成し、2年で戯曲作品を取り上げるなど多様な文章に触れられるよう工夫されている。(2年p.134)</p> <p>○「読む」学習材で学習したことと関連付けてその後の「話す・聞く」「書く」領域の言語活動が設定され、単元を貫く言語活動が行えるよう工夫されている。(1年p.143-148)</p>	<p>○各学年とも、同じタイトルの5つの単元でくり、学年段階に応じた学習材が配置されている。各単元で選択教材を補充発展的に扱えるよう工夫されている。</p> <p>○「発見する読み」で説明されている読解の手法を実際に使って読めるよう、そのすぐ後に学習材が配置されている。(1年p.38)</p>	<p>○言語の学習のページには全学年同じキャラクターを登場させた古典教材の資料として絵本や漫画を取り上げたりして、学習材を身近に感じさせるよう工夫されている。(1年p.48)</p> <p>○3年では、古典作品の最後に「遠野物語」を紹介し、古典作品と日常の読書生活をつなぐよう配慮されている。(3年p.185)</p>	<p>○各学年の「情報と表現」では、演習を進めながら、表現の特色について考えを深められるよう活動が工夫されている。(1年p.97,260,2年p.85,253,3年p.95,256)</p> <p>○読書案内では、作品を羅列するのではなく、関心のあるものや読んでみたいものを探せるように工夫されている。(1年p.282,2年p.275,3年p.275)</p>	<p>○「学びの窓」は「読む前に」「読み深める」「まとめ」と読みの段階によって課題が設けてある。課題もスモールステップで、書き込めるようになっていたため自学自習で取り組みやすくなっている。(1年p.20)</p> <p>○詩の学習では、比較読みができるよう同じ作者の作品が複数紹介されている。(1年p.79,2年p.63,3年p.71)</p>	<p>○3年では日本語を表す文字として点字、手話や指文字を取り上げ、文字について視野を広げる工夫がされている。(3年p.251)</p> <p>○巻末では「語句・語彙の学習」として解説を付し、調べたり確認したりできるようになっている。(1年p.291,2年p.302,3年p.290)</p>	<p>○各単元におかれた「選択教材」には新出漢字がなく、進度や生徒の実態に合わせた取扱ができるよう配慮されている。</p> <p>○「学びの窓」の「付いた力を確かめよう」を用いて、「言葉の力」「考える力」「知識や技能」の3つの観点で学習を振り返り、自己評価することができる。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
F	<p>○「読む」領域では、文学的文章を精選し配置しており、近代の作家については、作家の他の作品に読み広げられるよう読書案内が工夫されている。(1年p. 206)</p> <p>○「書く」領域では、情報整理の方法などスキルが学べたり、手紙やはがきの種類について紹介したりし、日常生活に役立つよう工夫されている。(1年p. 47, 2年p. 197)</p>	<p>○「読む」領域では、各学習材に「読み方を学ぼう」を置き、文章を読むときのスキルをまとめて図示し、読みが深まるよう工夫されている。</p> <p>○「話す・聞く」の学習材全てで、様々な形のグループ活動を設定し、協同して学習を進めることで、考えを広げたり、深めたりできるよう工夫されている。</p>	<p>○即興劇や古典の超訳など、生徒が意欲的に表現を工夫できるような学習材が選定されている。(1年p. 188)(2年p. 106)</p> <p>○古典の学習には、写真や絵を多用し、配色を工夫し、本文だけでなく古典に描かれている世界観も楽しめるよう工夫されている。(2年p. 95)</p>	<p>○資料編には、「読書の広場」の中に「情報探しのヒント」「情報の活用ヒント」というページを設け、図書館などを使った情報活用について具体的な方法が紹介されている。(1年p. 234, 236)</p> <p>○巻頭には領域別教材一覧表をマトリックスで整理し、生徒が見通しをもったり、振り返ったりしながら、学習に取り組めるよう工夫されている。</p>	<p>○新出漢字について、脚注には本文の用例通りに記し、巻末の「○年生で学ぶ漢字辞典」にまとめており、自主学习に利用できるように設定されている。</p> <p>○発展的学習として設定された「学びを広げよう」では、2つの課題が示されている箇所があり、生徒が選択したり、進度の速い生徒は両方を行ったりできるようにになっている。</p>	<p>○資料編に「学習用語辞典」を掲載し、学習活動に役立つ用語をまとめ、詳しい解説をつけている。(1年p. 282, 2年p. 286, 3年p. 256)</p> <p>○資料編では学年段階に応じて、様々な思考ツールを使い方とともに紹介している。(1年p. 260, 2年p. 266, 3年p. 256)</p>	<p>○「学びの道しるべ」として学習の流れを示すとともに、「読み方を学ぼう」という読み方のスキル学習を効果的に配置し、生徒の主体的な学びにつながるよう工夫されている。(1年p. 63, 64)</p> <p>○「話す・聞く」「書く」の教材では、本文にアイコンをつけて下段のまとめを見たり、巻末の参考資料で詳しい解説を読んだりできる。(1年p. 46)</p>
G	<p>○各学年の説明的な文章では、比べ読みできるよう複数の学習材を配置し学年段階に応じた批判的な読みの態度が養われるよう工夫されている。(1年138, 2年p. 152, 3年p. 84)</p> <p>○巻末の「言葉の自習室」に補充学習材を掲載することにより、基礎・基本の定着と同時に、生徒の「自主学习」「家庭学習」の充実が図られるよう工夫されている。</p>	<p>○学習材末の「みちしるべ」は、学習の進め方や「ここが大事」として教材で学びたい読みの手法が示されるなど、読みが深まるよう工夫されている。(1年p. 39)</p> <p>○著名人の論説を学習材に取り入れることにより、生徒の興味・関心を高められるよう工夫されている。(2年p. 54, 3年p. 88)</p>	<p>○文章と図表などに関わらせて読むことで、理解が深まる学習ができるような図版・写真が取り上げられている。(1年p. 148)</p> <p>○各学年とも巻末に折り込みページを設けて、古典作品に興味をもてるよう紹介しており、伝統的言語文化の学習が工夫できるようになっている。また、写真など資料を付して生徒の興味喚起を図っている。</p>	<p>○学習材末に関連図書を紹介し、読書により学習が深化、拡充できるよう工夫されている。また、表紙写真とともに紹介することで図書館で検索しやすいよう工夫されている。</p> <p>○各学年とも実際に表現する活動を取り入れ、メディアの特性について理解を深め自分の表現に生かせるような題材が選定されている。(1年p. 62)</p>	<p>○巻末の「言葉の自習室」に、多様な学習材を掲載し、発展的学習や自主学习に利用できるように工夫されている。(1年p. 279)</p> <p>○巻末「学びのチャレンジ」には、本編教材での学習をふまえた応用問題を設定しており、思考力、判断力、表現力を高められるよう工夫されている。(1年p. 328)</p>	<p>○各学年とも巻頭(p. 7)に「身につけたい言葉の力」「教科書の構成」を示し、国語の学習を概観できるよう工夫されている。</p> <p>○読書単元で「作品解説」や「作者紹介」を資料とともに詳しく掲載している。(1年p. 130-133, 3年p. 146-149)</p>	<p>○比べ読みができるよう複数の説明的な文章で単元を構成したり、メディアの学習で、実際に表現する活動を取り入れたりするなど学習材の選定が工夫されている。(1年p. 62, 138)</p> <p>○挿絵や写真を精選して掲載することにより、国語本来の文字(あるいは音声)によって伝えることを重視している。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【国語】No. 3

発行会社	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
J	<p>○1年の学習材は、身近なことを扱ったものや物語、3年の学習材は、社会に目を向けたものやより深い思考を必要とするものというように、発達の段階に応じた内容になっている。</p> <p>○「話す・聞く」「書く」の中心の学習材の他に短時間で取り組める題材を設け、生活や他の学習の場で生かせるよう工夫されている。(1年p. 40, 55)</p>	<p>○説明的な文章は、社会、文化、芸術、思想など、幅広い分野の評論や記録などになっている。また、各学年に東日本大震災に関する教材が入っている。(1年p. 73-77)</p> <p>○1年最初の単元は、声の出し方、ノートの取り方、調べ方など中学校国語の授業開きを意識した内容となっている。(1年p. 13)</p>	<p>○「話す・聞く」「書く」の学習材末に、「次へつなげよう」があり、他の学習や委員会活動など具体的に生かせる場面を挙げ、生徒の意欲を高める工夫がされている。(1年p. 39, 2年p. 55, 3年p. 40)</p> <p>○ノンフィクション作品を取り上げ、読書や社会への関心が高まるような題材が工夫されている。(1年p. 190, 2年p. 180, 3年p. 182)</p>	<p>○「読む」の学習材では目標に対する「学習の振り返り」の観点から工夫されており、自分の言葉で何を学んだのかをまとめるようになっている。(1年p. 48)</p> <p>○情報の集め方、吟味、発信について、学年で段階的に情報活用能力の基礎を身に付けることができるようになっている。(1年p. 60, 2年p. 59, 3年p. 62)</p>	<p>○資料編には、下学年の漢字の練習問題や文法のまとめがあり、特に1年では手書き風の書体で書かれた漢字が掲載され、漢字などの定着に向けて配慮されている。(1年p. 257, 2年p. 238, 3年p. 216)</p> <p>○「話す・聞く」「書く」では、学習の流れとポイントを図示し、これまでの学習を生かして見直しをもって学習できるよう工夫されている。(1年p. 36)</p>	<p>○読書案内では、テーマ別に本を紹介し、著名人が書いた本の推薦文を紹介するなど本の読み方の参考になるよう工夫されている。(1年p. 93)</p> <p>○巻末の折り込みページに文学的及び説明的な文章各々の用語の説明があり、学習用語が活用できるよう工夫されている。</p>	<p>○「季節のしおり」を適宜配置し、絵画とともに季節にまつわる詩歌や暦の言葉などを紹介することで、言語感覚が養われるよう配慮されている。(1年p. 35)</p> <p>○「読む」学習材末に「確認しよう」「読みを深めよう」「自分の考えをもとう」について、それぞれ課題が設定され、読む力を付ける手引きになっている。(1年p. 33)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【書写】No. 1

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○1年が39ページ、2年が33ページ、3年が17ページ、資料が29ページで、総ページ数が127ページである。</p> <p>○1年は毛筆教材が5点、硬筆教材が3点、硬毛共通教材が1点、2年は毛筆教材が4点、硬筆教材が3点、硬毛共通教材が2点、3年は硬筆教材が1点、硬毛共通教材が1点、思考・判断のための教材が3点である。(p. 82, 92)</p>	<p>○すべての学年において文字の学習、配列の学習、生活場面における学習の順に単元が構成されている。</p> <p>○「二」「十」「口」「人」という四つの基本的な動きのパターンから行書学習に入り、他の文字へ応用することで、段階的に行書を身に付けられるような構成となっている。(p. 29)</p>	<p>○改善が必要な書字例を示し、改善点を進んで考えられるように工夫されている。(p. 8, 25)</p> <p>○学習を深める内容や生活に密着した情報や豆知識が折り込まれた「しよしゃのたね」や「しよしゃのつぼ」というコラムが設けられ、興味を引くように工夫されている。(p. 21, 39)</p>	<p>○「生活に広げよう」のページや「生活を豊かにする文字」の単元では学習過程を示し、生徒が見通しをもって学習に取り組めるような工夫がなされている。(p. 26-27)</p> <p>○職場訪問や防災訓練など、地域社会と関わる教材を取り入れ、地域社会への関心を高めるきっかけとなるよう配慮されている。(p. 72-78)</p>	<p>○「書くときのポイント」をページ端に帯で示し、どのようなことに気を付けて書けばよいか確かめながら学習ができるようにしている。(p. 10)</p> <p>○日本及び中国の古典を取り上げ、芸術書道の学習へのつながりに配慮されている。(p. 106-107)</p>	<p>○資料中に「人名用漢字表」を載せ、生徒が自分の名前を書くための手本、手がかりとすることができるようにしている。(p. 123-128)</p>	<p>○1, 2年で基礎的な知識・理解に重点を置き、3年でそれらを活用して、目的に応じて文字を書く技能を育てるように工夫されている。(p. 8-9, 86)</p> <p>○判型がA B判と幅が広く、見開きのページを十分に生かして、大きな写真や図版やイラストによる資料を豊富に使用した紙面構成となっている。(p. 12-13)</p>
E	<p>○1年が44ページ、2年が32ページ、3年が30ページ、資料が11ページで、総ページ数が120ページである。</p> <p>○1年は毛筆教材が6点、硬筆教材が4点、2年は毛筆教材が6点、硬筆教材が4点、3年は毛筆教材が3点、硬毛共通教材が1点である。</p>	<p>○3年間を通して7章で構成され、それぞれにねらいを表したタイトルが付けられ、見通しをもって学習できるよう工夫がされている。(p. 1)</p> <p>○1, 2年では毛筆教材の後に硬筆教材を配置し、毛筆学習と硬筆学習の関連を理解できる構成になっている。</p>	<p>○「書写の窓」では、書写に関する疑問や学習の留意点についてのまとめ、書体の歴史、手紙のマナー、篆刻などを取り上げ、興味・関心の幅を広げる工夫がされている。(p. 3, 26)</p> <p>○「書写を生活に生かそう」では、生徒作品を写真で紹介し、具体的なイメージをもちやすいような工夫がされている。(p. 87)</p>	<p>○場面に応じて書く学習では、素材に清掃活動や福祉体験学習を取り上げ、学びと生活・社会とのかかわりについて興味・関心を高める工夫がされている。(p. 71, 88)</p> <p>○「書写を生活に生かそう」では、様々な筆記具の紹介や学校行事におけるレポートや札状、作文、宅配便の送り状等を取り上げ、生活に生きる書写の教材を提示している。(p. 86-93)</p>	<p>○縮小した手本に赤字で筆順や注意点を付記し、自分で確かめながら学習ができるよう配慮している。(p. 10)</p> <p>○1・2年とも学年末に「確かめよう」で、1年間の学びで気付いたことを意識させて、活用への意欲付けとなるよう配慮している。(p. 36-39, 72)</p>	<p>○「篆刻を体験しよう」では篆刻の作り方や生徒作品例が紹介され、文字への興味や関心を広げるよう配慮されている。(p. 100, 109)</p>	<p>○実際に練習したり、作品を作ったりする活動が中心となっている。(p. 54, 70)</p> <p>○3年間を通して、社会生活場面で文字を整えて書く力を育成する構成である。(p. 71, 90)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【書写】No. 2

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
F	<p>○1年が35ページ、2年が25ページ、3年が7ページ、資料が39ページで、総ページ数が116ページである。</p> <p>○1年は毛筆教材が6点、硬筆教材が3点、硬毛共通教材が2点、2年は毛筆教材が5点、硬筆教材が3点、思考・判断のための教材が1点、3年は硬毛共通教材が1点、思考・判断のための教材が1点ある。</p>	<p>○1、2年とも「考えよう・話し合おう」で話し合いや考察を経てから、主教材の学習へと進むよう編集されている。(p.10,48)</p> <p>○全学年で基礎的・基本的な学習の単元の後に、「生活に生かそう」の単元が配置され、身に付けた力をすぐに活用し、確実に定着させる工夫がなされている。</p>	<p>○行書の最初の教材では、制限時間内に書いてみる活動を通して、行書学習の意義をつかめるように工夫されている。(p.30)</p> <p>○「書写の探検隊」というキャラクターが学習をナビゲートし、生徒が見通しをもって学習できるような配慮がされている。(p.18-19)</p>	<p>○3年「生活に生かそう」では、毛筆半紙作品と硬筆作品とを並べた卒業記念冊子を作る活動を設定し、3年間の学習の積み上げを実感できるような工夫がされている。(p.74-75)</p> <p>○巻末資料編では、さまざまな場面や用途に応じた書式が「日常の書式」としてまとめられており、実生活や他教科等で活用できるような配慮がされている。(p.78-84)</p>	<p>○「書の名手たち」というページでは、古典と筆者が紹介され、芸術書道への興味・関心を高める工夫がされている。(p.68)</p> <p>○毛筆の学習では「書いて確かめよう」として学習内容を硬筆で確認する活動を設け、生徒が毛筆学習の予習や復習に自主的に取り組めるような工夫がされている。(p.10)</p>	<p>○J-POPの歌詞を書き写した作品や筆記具の進化、コンピュータ開発者の逸話を取り上げ、現代社会における手書き文字の価値について視野を広げる工夫がされている。(p.28,92,裏表紙裏)</p>	<p>○全般に、課題解決的な編集となっており、主体的に学習に取り組める工夫がされている。</p> <p>○学習課題に対して生徒が思考・判断することで基礎的・基本的な技能が身に付けられるような工夫がされている。(p.8)</p>
G	<p>○1年が56ページ、2年が36ページ、3年が13ページ、資料が27ページで、総ページ数が140ページである。</p> <p>○1年は毛筆教材が6点、硬筆教材が5点、硬毛共通教材が1点、2年は毛筆教材が6点、硬筆教材が3点、思考・判断のための教材が2点、3年は毛筆教材が2点、硬毛共通教材が2点、思考・判断のための教材が1点ある。</p>	<p>○毛筆の学習が中心で教材の数が多く、繰り返し練習して確実に技能を身に付け、硬筆で知識・理解の定着を図る構成となっている。</p> <p>○全ての毛筆教材の中に、「試し書き」「まとめ書き」等、硬筆の練習を取り入れ、日常の書く活動につなげる工夫がされている。</p>	<p>○「文字は残る」「あの人が残した文字」のページでは、著名人の実際の筆跡を紹介し、書字についての興味・関心を高めるような工夫がなされている。(p.34-35,66-67)</p> <p>○クラス旗やクラスTシャツ、卒業カレンダーなどといった身近な場面に学習を生かせる例を取り上げて、興味・関心をもてるように工夫されている。(p.94-95,110-111)</p>	<p>○「文字で心を伝えよう」のページでは、文字や言葉によるコミュニケーションや仲間づくりを考えさせる工夫がされている。(p.28,94)</p> <p>○「暮らしの文字を支える人々」や「社会で生きる文字」では、学びと生活・社会のつながりを具体的に示す工夫がされている。(p.56,100)</p>	<p>○補充教材集1、2で教材を複数示し、興味・関心や習熟度に応じて生徒が選択し、学習が深められるような工夫がなされている。(p.63-64,120-121)</p> <p>○「日本建築と『書』」「芸術としての書道」では、文字文化と芸術との関係について意識を高める工夫がされている。(p.84-85,裏表紙裏)</p>	<p>○巻末の漢字一覧は部首ごとにまとめられており、字形を学ぶ際の参考にしやすい編集となっている。</p>	<p>○学習を日常に生かすというねらいを明確にし、目的意識や相手意識をもって、書くための力を付けられるよう編集されている。(p.1)</p> <p>○まとめの教材や補充教材を含め、毛筆教材が豊富で、毛筆による基礎・基本の学習の充実が図られている。(p.63-64)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【書写】No. 3

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
J	<p>○学習編は1年が24ページ、2年が16ページ、3年が10ページ、資料編は59ページで、総ページ数が119ページである。</p> <p>○1年は毛筆教材が6点、硬筆教材が3点、2年は毛筆教材が4点、硬筆教材が2点、思考・判断のための教材が1点、3年は硬毛共通教材が1点、思考・判断のための教材が2点ある。</p>	<p>○練習や作品作りの教材数を少なくすることで、実際に学校生活や日常生活に生かす学習を重視している。</p> <p>○学習の流れが見開き2ページに、「目標」「学習の窓」「学習を振り返る」の三段階で示され、見通しをもって学習ができるように配慮されている。(p.10-11)</p>	<p>○導入段階に「書き込み」や「なぞろう」「○をつけよう」などの活動を盛り込み、生徒が視点をもって学習できるような工夫がされている。(p.10,28)</p> <p>○「活用のヒント」では、情報の収集・整理・発信の例を紹介し、各教科等への書写学習の活用を示し、興味・関心を高める工夫がされている。(p.68-77)</p>	<p>○「季節のしおり」では、古謡や唱歌、短歌、俳句、古典、小説などの語句や文章を書写し、日本の言語文化を味わう工夫がされている。(p.32,48)</p> <p>○3年生の最初にイラストレーターやデザイナーへの取材の文章が掲載されており、文字や言語文化だけでなく、キャリア教育の視点が意識されている。(p.50-53)</p>	<p>○「先人の文字に学ぶ」では、異なる筆者の同一文字を比べさせ、書字には個性が表れることを示し、芸術書道への興味・関心を高めている。(p.58)</p> <p>○「書写事典」として、常用漢字の楷書・行書やひらがな・カタカナ、数字、アルファベット、部首の手本を掲載し、自主学習に活用できるような工夫がされている。</p>	<p>○「三年間のまとめ」では、テスト形式で既習事項の確認ができるように工夫がされている。(p.54-55)</p>	<p>○毛筆、硬筆ともに1教材が見開き2ページに収められ、学習の見通しがもてるような配慮がされている。(p.10-11)</p> <p>○資料を多くし、弾力的に扱えるようにして、必要に応じて基礎・基本の学習と関連させたり他教科等の学習に活用させたりできるようにしている。(p.60-118)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【社会（地理的分野）】 No. 1

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○基礎的・基本的内容で構成され、小学校の学習内容とのつながりを示すなど生徒の発達の段階に即した配慮がされている。(p.5)</p> <p>○「地理スキル・アップ(16点)」で地理学習を進める上での基礎的・基本的な技能の身に付け方が、「えんぴつマーク」(p.9)で学習を深めるための作業・活動が示されている。</p>	<p>○世界や日本の諸地域では、各地域の「学習テーマ」(p.47)や「追究テーマ」(p.183)が設定されており、それぞれ異なる視点で地域の特色をとらえる構成となっている。</p> <p>○各時間に学習課題と、その時間の学習内容を確認したり、深めたりする課題が「確認」として示されている。(p.6,7)</p>	<p>○「ためしてみよう」では、導入で取り組む活動の例を示したり、学習に関連した話題をコラム「ティープレイク」で紹介したりするなど、興味・関心を高める工夫がされている。(p.7)</p> <p>○歴史・公民の学習と特に関連の強い内容には、「分野関連マーク」が付けられており、他分野とのつながりを意識して学習できるよう配慮されている。(p.40)</p>	<p>○竹島の写真や地図が掲載され、「日本固有の領土」「韓国が不法に占拠」と記述されている。また、特設ページにおいて竹島とその周辺の地勢が記述されている。(p.133,134)</p> <p>○日本のエネルギーでは、出雲市の風力発電の写真(p.163)、中国・四国地方では、都市と農村の変化をテーマとし、市町村合併で雲南市、交通の発展で浜田駅と広島駅を結ぶ高速バスの内容が扱われている。(p.199-200)</p>	<p>○「地理にアクセス」(p.11)では、学習内容を詳しく説明したり、その内容と関連する事柄を紹介したりしている。また、単元末の「深めよう」では学習内容をさらに追究する視点が示されている。(p.41)</p> <p>○「調査の達人」で、調査学習を進めるうえでの技能の身に付け方が示されている。(p.116)</p>	<p>○すべての単元の最後に、学習した内容を確認する「学習をふりかえろう」が設けられている。(p.20)</p> <p>○世界各地の人々の生活と環境では、寒帯と冷帯が別々に扱われ、それぞれの気候帯ごとに人々の暮らしの様子が示されている。(p.21-42)</p>	<p>○基礎的・基本的内容で構成され、小学校の学習内容とのつながりを示すなど生徒の発達の段階に即した配慮がされている。(p.5)</p> <p>○世界や日本の諸地域では、まず地域全体を概観した後、個々の地域の特色や課題を学習するという一貫した流れになっている。(p.46-47)</p>
G	<p>○基礎的・基本的内容で構成されており、活字の大きさや文章表現の程度も平易である。側注解説では知っておきたい語句の解説がしてあり、発達の段階に即している。</p> <p>○「地理にアプローチ」では、地図やグラフの見方など、段階的に資料活用能力を身に付けられるよう配慮されている。(p.6)</p>	<p>○世界や日本の国々では、それぞれに追究するテーマを設定し、章末に「学習のまとめと表現」を設け、2段階の課題が示されている。(p.56)</p> <p>○各時間に「学習課題」を示し、ステップ1, 2の2段階の「ふりかえる」ポイントが示されている。(p.16-17)</p>	<p>○「地理の窓」が設けられ、パスポートなど生徒が興味・関心をもてる内容が取り扱われている。(p.17)</p> <p>○学習の冒頭に、学習へのきっかけとなる「導入資料」、学習を進める中で追究の中心となる「中心資料」を配置し、解説文を「見よう」として付記するなど、探究的に学習を進める工夫がされている。(p.14-15)</p>	<p>○竹島の写真や地図が掲載され、編入の経緯とともに「日本固有の領土」「韓国が…(略)…不法に占拠」と記述されている。(p.131)</p> <p>○中国・四国地方では、「人口や都市・村落を中心に考えよう」をテーマとし、大田市の過疎問題と石見銀山の観光開発について写真やグラフとともに紹介されている。また、石見空港の利用問題も扱われている。(p.178,183)</p>	<p>○世界の諸地域では「地域から世界を考えよう」、日本の諸地域では「現代日本の課題を考えよう」など学習内容を深めやすい13のテーマが設けられている。(p.93,172,173)</p> <p>○「読み解こう」で資料活用のヒントを示し、考えや学びを深めさせる工夫がされている。(p.37)</p>	<p>○巻頭に、ユニバーサルデザインを取り上げ、実際の点字や触る地球儀などが掲載されている。(巻頭p.5)</p> <p>○「地図を活用しよう」では、生徒が興味・関心を持ちやすいテーマで、見開きの地図が示されている。(p.121-124)</p>	<p>○基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける内容と、深めたり追究したりするテーマ学習がバランス良く配置されている。(p.66-67)</p> <p>○地理を学ぶことで、日常生活と世界の動きを関連付けて考える力と想像力を身に付けられるよう「地域にまなぶ」という一貫したテーマで記述されている。(p.172-173)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【社会（地理的分野）】 No. 2

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
K	<p>○基礎的・基本的内容を重視している。また、分かりにくい用語について同じページに「解説」を設けるなど、発達の段階に即した配慮がされている。(p. 6)</p> <p>○「技能をみがく」で地理の基礎的な技能の身に付け方が、「資料活用」で資料に関する問いかけや作業活動が示されている。(p. 7)</p>	<p>○世界と日本の諸地域は「注目するテーマ」でそれぞれ異なる視点でとらえられるよう示されている。「学習をふりかえろう」では、確認・説明・探求の3段階の課題が設けられている。(p. 48-49)</p> <p>○各時間に学習課題と確認・説明の2段階の振り返りポイントが示されている。(p. 2-3)</p>	<p>○世界と日本の諸地域の学習では、導入で各地域を概観する写真が掲載され、「探してみよう」で学習意欲を高める工夫がされている。(p. 34-35)</p> <p>○「羅針盤」では、共生・環境・防災の視点から、未来の社会づくりについて、生徒の思考を促すコラムが設けられている。(p. 57)</p>	<p>○竹島の写真と地図が掲載され、編入の経緯とともに「日本固有の領土」「韓国が…(略)…不法に占拠」と記述されている。また、コラムに昔の竹島について漁の写真とともに説明されている。(p. 127)</p> <p>○中国・四国地方は、「他地域との結びつき」をテーマとし、「交通網の整備」で浜田自動車道が、「観光地の変化」で出雲大社、石見銀山、津和野、松江が紹介されている。(p. 192-193)</p>	<p>○日本の諸地域の学習では、「地域を探ろう」が設けられ、具体的な例を通して学習内容が深められるよう工夫されている。(p. 180)</p> <p>○「トライアル地理」では、ハザードマップや観光ルートマップをつくる課題が設けられ、学んだ地理的な知識や技能を活用できるよう工夫されている。(p. 148)</p>	<p>○島根県については石見神楽を継承する人の話と神楽の写真(p. 192)、島根県を訪れる観光客数の変化のグラフ(p. 192)などが取り扱われている。</p> <p>○日本の気候区分では、島根県の大部分は太平洋側の気候に区分されている。(p. 143)</p>	<p>○基礎的・基本的内容を重視するとともに、学習したことを具体例を通じてさらに深めるページが設定されている。(p. 180)</p> <p>○世界と日本の諸地域の学習は、写真により地域を概観し、自然環境から学習する一貫した流れとなっている。(p. 34-37)</p>
O	<p>○基礎的・基本的内容を重視しつつ、それらを活用して考えを深めたり、現実の問題に取り組んだりできる内容になっている。(p. 146-149)</p> <p>○「スキルアップ」や「言語活動コーナー」が設けられており、資料の読み取りやそれらをもとにした思考・判断・表現活動の道筋が示されている。(p. 22)</p>	<p>○世界と日本の諸地域はそれぞれ異なるテーマでとらえられ、学習のまとめとして整理・活用の2段階の課題が設けられている。(p. 45)</p> <p>○各時間に学習課題と確認事項が示されている。また、各時間のポイントとなる言葉が「キーワード」で、作業学習の内容が「トライ」で示されている。(p. 2-3)</p>	<p>○スコットランドの独立問題(p. 53)や御岳山の噴火(p. 141)など最新の動向が紹介され、写真も2014年以降のものが35点以上あるなど、現在の社会の動向を見据えた学習ができるよう配慮されている。</p> <p>○「連携コーナー」が設けられており、小学校の内容や歴史・公民の内容とのつながりを意識して学習できるよう配慮されている。(p. 2)</p>	<p>○竹島の写真と地図が掲載され、編入の経緯とともに「日本固有の領土」「韓国が…(略)…不法に占拠」と記述されている。また、松江市の竹島資料室の写真も掲載されている。(p. 118-119)</p> <p>○中国・四国地方は「人口や都市・村落」の視点から取り上げられており、高齢化率のグラフ、雲南市吉田地区の生卵専用しょうゆが取り扱われている。(p. 188-189)</p>	<p>○「地理+α」で、関連する事項を掘り下げて学習内容の理解を深められるようになっている。(p. 4)</p> <p>○世界の諸地域の学習では、各単元の最後に「地球温暖化をふせぐために」などをテーマにした「自由研究」が設定されており、それぞれの地域から見た課題を追究できるようになっている。(p. 56)</p>	<p>○広島県の土石流による災害(p. 142)など「災害・防災」や「持続可能な社会」の視点からの記述が20点以上ある。</p> <p>○日本の諸地域の学習では、最後に「地域からのメッセージ」として、各地域の努力が紹介されている。(p. 180)</p>	<p>○基礎的・基本的内容を重視しつつ、それらを活用して考えを深めたり、現実の問題に取り組んだりできる内容になっている。(p. 146-149)</p> <p>○スリランカと日本やクールジャパンなど世界と日本の結びつきや地域から世界を見る視点も取り入れられている。(p. 44, 221)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【社会（歴史的分野）】 No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○A B判で写真や図表が大きく見やすい。写真や図表に本文と同じ番号を付し、記述内容との関連がつかみやすい工夫されている。</p> <p>○全体のタイトルのうち近現代が約50%を占め、本文の内容を詳しく説明する「歴史にアクセス」においても60%以上近現代の話題を取り上げている。</p>	<p>○各章のはじめに小学校での学習を想起させながら歴史の大まかな流れをつかませたり、各章の最初と最後に必ず年表が掲載したりするなどして、各時代を概観できるよう配慮されている。</p> <p>○地理や公民の学習とつながりが強い内容にマークを付け、関連をつかめるよう工夫されている。</p>	<p>○歴史上の人物をキャラクター化したイラストを全体を通して用いて、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 6-7)</p> <p>○第1章で「歴史の流れ」として歴史学習の基礎的知識を説明しており、その中で小学校とのつながりを想起させることによって興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 10-11)</p>	<p>○竹島について、「国境と領土の確定」の他、「緊張緩和と日本外交」の側注に日韓基本条約締結時に領有権の問題があったことが記述されている。コラムにおいて、編入の経緯や韓国の不法占拠、我が国の外交努力、島根県による「竹島の日」制定等について記述されている。(p. 168, 251-252)</p> <p>○コラムで「島根と神話」、欄外解説で石見銀山について詳しく説明されている。(p. 59, 107)</p>	<p>○各章の最後に、ウェビング法やノートでのまとめ方などの紹介があったり、見開き2ページごとにふり返りのための課題が設けられたりして自分に合った学習法が選べるよう工夫されている。</p> <p>○歴史学習のまとめとして、プレゼンテーションソフトを使ってのまとめ方が紹介されている。(p. 275)</p>	<p>○コンピューターやインターネットなどの活用が効果的であると考えられる資料にデジタルのマークが付けられている。</p> <p>○災害に関する写真の掲載について、指導の際の配慮を促す文言等がある。(p. 3)</p>	<p>○各章のはじめに小学校での学習を想起させながら歴史の大まかな流れをつかませたり、各章の最初と最後に必ず年表を掲載したりするなどして、各時代を概観できるよう配慮されている。</p> <p>○地理や公民の学習とつながりが強い内容にマークを付け、関連をつかめるよう工夫されている。</p>
G	<p>○A B判で写真や図表が大きく、写真や図表に本文と同じ番号を付し、記述内容との関連をわかりやすくするなど、読みやすい工夫がされている。(p. 98)</p> <p>○見開き2ページを1タイトルとすると、約55%のタイトルを近現代が占めている。学習から興味・関心を広げる「歴史の窓」において60%以上近現代の話題を取り上げている。</p>	<p>○古代、中世といった時代の区切りごとに「時代の変化に注目しよう」という資料を使って学習した時代の振り返りと次の時代の予想ができるよう工夫されている。(p. 52-53)</p> <p>○タイトルのすぐ上に「時代スケール」があり、何世紀の出来事なのかひと目で分かるように工夫されている。(p. 24)</p>	<p>○小学校で学んだ人物の架空サミットを考えたり、肖像画等について、小学校の学習で登場した人物をマークで示したりして、小学校の学習を想起させ、興味・関心を引き出すよう工夫されている。(p. 6-7, 34)</p> <p>○プロローグIIにおいて、実際の点字が使用され、直接さわって体験できるよう工夫されている。(巻頭5)</p>	<p>○竹島について、「領土の画定と沖縄県」の側注で島根県への編入が記述されている。コラムにおいて「現在に残された課題」の一つとして、編入の経緯や韓国の不法な占拠、国司法裁判所への付託等について記述されている。(p. 165, 257)</p> <p>○神話についてのコラムの中で出雲大社が紹介され、石見銀山についても1ページのコラムがある。(p. 48)</p>	<p>○歴史にアプローチというページが最初に設けられ、干支、単位、資料の読み方を解説し、発展的に学習できるよう工夫されている。(p. 11-14)</p> <p>○見開き2ページごとに「ふりかえる」、各章の終わりに「学習のまとめと表現」を設け、基礎・基本の確認と表現力をつける課題が設定されている。(p. 17, 50-52)</p>	<p>○コラム2ページにわたって神話が紹介され、日本古来のものの見方や考え方がギリシャ神話や中国の信仰と関連付けて説明されている。(p. 48-49)</p> <p>○長さや面積がイラストで分かりやすく説明されているなど、理解を助けるための工夫がされている。</p>	<p>○近現代の内容が、総タイトルの約55%、学習から興味・関心を広げる「歴史の窓」においても60%以上占めている。</p> <p>○古代、中世といった時代の区切りごとに「時代の変化に注目しよう」という資料を使って学習した時代の振り返りと次の時代の予想ができるよう工夫されている。(p. 52-53)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【社会 (歴史的分野)】 No. 2

発行会社	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
I	<p>○欄外の解説は、1つ1つが詳しく説明されており、資料はわかりやすく現代語で書かれている。また余白が多く読みやすさに配慮されている。</p> <p>○見開き2ページを1タイトルとして、全84タイトルで構成されており、そのうち約52%を近現代が占めている。</p>	<p>○「地図で見る世界史」を設けたり、世界地図を挟み込みで付けたりして、世界とのつながりが意識できるよう構成されている。</p> <p>○各章末に設けられた「まとめてみよう」は、年表、資料、地名によって基礎的・基本的な内容を確認し、最後に時代の特徴等を説明したりまとめたりする構成となっている。</p>	<p>○巻頭に時代ごとのキャッチコピーをグループで考えるという課題を設け、小学校の学習とのつながりが意識できるよう工夫されている。(表紙裏等)</p> <p>○各章に「もっと知りたい歴史」というコラムを設けたり、年表の「おもな文化」欄に各時代を代表する住居のイラストを入れたりして興味を引き出すよう工夫されている。(p. 8, 巻末)</p>	<p>○竹島について、「領土の確定と北海道・沖縄」において、本文に「日清・日露戦争のころに尖閣諸島や竹島を日本領として編入」、側注に「1905年に島根県に編入」と記述されている。(p. 178)</p> <p>○「神話と伝承」というコラムに、1ページにわたって国引き神話を取り上げ、イラストを使って詳しく説明されている。(p. 44-45)</p>	<p>○1単位時間ごとの「まとめてみよう」では、その時間の学習内容を確認する課題とともにさらに深めるための課題が示され、学習内容のより確かな定着が図れるよう配慮されている。</p> <p>○「歴史のとびら」というコラムで、歴史史料の読み方等を解説し、発展的な学習に役立つよう工夫されている。</p>	<p>○各章のとびらに、「なぜ」「どんな」という疑問が示してあり、学習活動全般を通して考えていけるよう構成されている。</p> <p>○キャラクター等を本文中に使用しないことで、記述による情報を読み取りやすいよう配慮されている。</p>	<p>○各ページの欄外の解説等が詳しく説明されている。各章のまとめを1ページとしたり、コラムの種類を2種類に絞ったりするなど、精選したつくりになっている。</p> <p>○近代において東アジア、特に中国と朝鮮について詳しく記述し、近代以降の歴史の理解を助ける工夫がされている。(p. 146-147)</p>
K	<p>○AB判で写真や図表が大きく見やすいという、写真や図表に本文と同じ番号を付し、記述内容との関連がつかみやすいよう工夫されている。(p. 94)</p> <p>○総ページ数をおさえ内容が精選されている。見開き2ページを1タイトルとすると、約55%を近現代史が占めている。羅針盤マークを付したコラムは、約70%が近現代史での話題となっている。</p>	<p>○各部の終末において、年表、地図を用いて学習のまとめを行うとともに、班などで調べることのできる課題を設け、協働的な学習ができるよう配慮されている。(p. 48-49)</p> <p>○第1部で歴史のとらえ方と調べ方を学ぶことで、ねらいを明確にした調べ学習とは何かイメージしやすいよう工夫されている。</p>	<p>○「タイムトラベル」という想像図が全章のはじめにあり、それぞれの時代の様子を予想したり、大まかな様子をつかんだりしやすいように工夫されている。(p. 20-21)</p> <p>○巻末の歴史年表中「世界のおもなできごと」欄に世界各地の世界遺産が紹介され、興味・関心を引き出すよう工夫されている。(巻末)</p>	<p>○竹島について、「新たな外交と国境の画定」において、本文に島根県への編入が記述されている。コラムにおいて、編入の経緯やサンフランシスコ平和条約による領土の確定、韓国の不法な占拠、国際司法裁判所への付託等について記述されている。(p. 167, 247)</p> <p>○コラム「地域史」において、石見銀山について「日本の中で銀の最大の産地」と紹介されている。(p. 91)</p>	<p>○史料から歴史をひもといてまとめていくページや学んだことを生かして考えることができるページがあり、発展的な学習ができるよう工夫されている。(p. 64-65, 106-107)</p> <p>○見開き2ページごとに、重要語句を書き出して自分の言葉で説明しながら振り返る課題を設け、家庭学習に活用できるよう工夫されている。(p. 19)</p>	<p>○「タイムトラベル」を活用し、政治の様子だけでなく庶民の生活を通して、歴史を作ってきた人の姿が見えるよう工夫されている。</p> <p>○「人物さくい」は「政治に関する人」「外国人」など、記号等を使って伝わるよう工夫されている。(p. 264)</p>	<p>○各時代を大きくとらえることができる構成にして、近現代のページを十分とって考えることができるよう工夫されている。</p> <p>○「タイムトラベル」は、歴史を政治史だけでなく民衆史の視点から見つめることができるとともに、それぞれの時代の様子を予想したり、大まかな様子をつかんだりしやすいように工夫されている。(p. 20-21)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【社会（歴史的分野）】 No. 3

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
○	<p>○A B判で大きな資料写真が多く、見やすいうえ、写真や図表に本文と同じ番号を付し記述内容との関連がつかみやすいよう工夫されている。(p. 106-107)</p> <p>○史料は原文のままのところもあれば、現代語に直したり訳をつけたりしているところもあり、時代の雰囲気を感じさせながら意味や内容の理解を助けるための工夫がされている。(p. 73, 166)</p>	<p>○「地図で見る世界の動き」を各章の最初に設け、世界とのつながりが意識できる構成になっている。(p. 60-61)</p> <p>○各章のまとめに、課題を設けてグループ等で調べてまとめる活動を示し、協働的な学習が行えるよう工夫されている。(p. 126-127)</p>	<p>○第1編に「歴史のとらえ方」というイラストを用いた調べ学習の解説を設け、小学校の学習とのつながりに配慮されている。(p. 6)</p> <p>○歴史学習の基礎資料として文化財の種類や土地制度の移り変わりを示す年表等を紹介することで、興味・関心を高める工夫がされている。(p. 284-286)</p>	<p>○竹島について、「領土の画定と隣接地域」の側注において「島根県に編入」が記述されている。また、中韓との国交正常化についてのコラムで、編入や竹島問題の経緯、国際司法裁判所への付託等について記述されている。(p. 176, 265)</p> <p>○コラムにおいて、石見銀山について「全国の銀山の中でも特に産出量が多かった」と紹介されている。(p. 111)</p>	<p>○見開き2ページごとに「学習の確認と活用」という課題が設けられており、自主学習に取り組めるよう工夫されている。(p. 19)</p> <p>○教科書の最後に「歴史学習の基礎資料」という文化財の見方や史料の読み方が示してあり、発展的な学習に活用できるよう工夫されている。(p. 281-287)</p>	<p>○各編ごとに設けられた「先人に学ぶ」というコラムでは、歴史上の人物だけでなく、食、伝統文化、防災といった様々な分野での先人について取り上げられている。(p. 274-275)</p> <p>○左ページには、時代を確認できるよう時代・世紀のスケールを設けてあり、調べる際の爪としても利用できる。</p>	<p>○絵画史料等から歴史をひもとく経験ができるように作られており、中学校以降の歴史学習の基礎を築くことができる工夫がされている。</p> <p>○史料は原文のままのところもあれば、現代語に直したり訳をつけたりしているところもあり、時代の雰囲気を感じさせながら意味や内容の理解を助けるための工夫がされている。(p. 73, 166)</p>
Q	<p>○古代に多くのページを割いて丁寧に説明し、日本の古代について興味をもてるよう工夫されている。</p> <p>○古代と近代以降では、人物名、事件名等の歴史用語を多く用いて詳しく述べられている。資料はわかりやすく現代語で書かれている。</p>	<p>○「歴史豆辞典」では各章のまとめとしてその章で学んだ歴史用語を100字で解説しており、学習内容についてポイントを押さえて確認できるよう工夫されている。</p> <p>○日本の伝統や文化について多くのコラムが掲載されており、日本の伝統や文化を掘り下げて学習できるよう工夫されている。</p>	<p>○学習の導入では、「日本歴史の舞台」として、我が国を「森の国」「水田の国」「町工場」の3点で整理するとともに、歴史学習の意義について考えさせている。(p. 2)</p> <p>○「年号→西暦早見表」のページが設けられており、年号への関心を深めるよう工夫されている。(裏表紙裏)</p>	<p>○「21世紀の日本の進路」において、「竹島は日本固有の領土」であり、韓国が「不当な占拠をつづけている」と記述され、側注に編入の経緯が記述されている。(p. 272)</p> <p>○コラム「もっと知りたい」において、神話について学習を深める「国譲り神話と古代人」というテーマで出雲大社について詳しく説明されている。(p. 46-47)</p>	<p>○導入に歴史のとらえ方を学ぶ章が設けてあり、時代の表し方、人物を通しての歴史の見方など、自ら学ぶための手立てが紹介されている。(p. 7-24)</p> <p>○見開き2ページごとに「まとめにチャレンジ」という課題が設けられ、学習した内容についてキーワードを使ってまとめる課題が設定されている。</p>	<p>○神話と大和朝廷の始まりを関連付けて記述している他、コラムにも神話を取りあげている。(p. 44-47)</p> <p>○「外の目から見た日本」というコラムで日本人の良さに気付くようにしている。(p. 180-181, 276)</p>	<p>○古代と近現代に重点を置いており、日本古来の文化の独自性と、近代以降、独立が維持されたことについて考えられるよう工夫されている。</p> <p>○古代と近代以降では、人物名、事件名等の歴史用語を多く用いて詳しく述べられている一方、資料はわかりやすく現代語で書かれている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【社会 (歴史的分野)】 No. 4

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容, 程度, 分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5 発展的学習, 自学自習についての工夫	6 その他	
R	<p>○A B判で写真, 図表等が大きく見やすく, 近代以降は, 人物名, 事件名等の歴史用語を多く用いて詳しく述べられている。</p> <p>○見開き2ページを1タイトルとして, 全85タイトルで構成されており, そのうち約50%を近現代が占めている。</p>	<p>○各章の最初に年表で学習する範囲を示すとともに, 終末には, 年表や地図を使った学習のまとめの欄が設けられている。</p> <p>○各章のとびらに, 「海洋国家・日本の歩み」と題してその時代を代表する船を写真で紹介し, 一貫したテーマで歴史の流れがつかめるよう工夫されている。</p>	<p>○「人物クローズアップ」や「なでしこ日本史」といったコラムで多くの人物が取りあげられており, 人物を通してその時代の特徴が捉えられるよう工夫されている。</p> <p>○各時代のはじめに, 「鳥の目」でイラストを, 「虫の目」で絵画資料を見て時代を概観し, 興味を喚起するよう工夫されている。</p>	<p>○竹島について, 「明治初期の外交と国境の画定」のコラムで, 編入の経緯と現在韓国に不法に占拠されていることが記述されている。また, 「日本の現状とこれから」の本文に, 韓国に不法占拠されていることが記述されている。(p. 173, 273)</p> <p>○コラム「歴史ビュー」において, 石見銀山について「石見銀山, 東アジアの交易でも信用の高い通貨」と紹介されている。(p. 87)</p>	<p>○見開き2ページごとに学習内容についてキーワードを用いてまとめる課題が設けられている。また, 章末には, 自分の言葉でその時代をまとめ, その考えについて話し合う課題が設けられている。</p> <p>○歴史学習の最後に, 「10大事件選び」など, 学習内容を総合的に活用する課題を設け, 歴史を大観し, 伝え合う力を養えるよう工夫されている。(p. 279-280)</p>	<p>○日本の国の成り立ちを丁寧に説明するとともに, コラムを用いて日本の宗教観や神話等について詳しく扱われている。(p. 38, 50-51)</p> <p>○日本の文化, 芸術について, 「気品にみちている」等といった表現で, その良さに気付くよう工夫されている。(p. 49, 77)</p>	<p>○歴史上の人物が数多く取り上げられている。また古代に多くのページを割いて詳しく説明しており, 日本古来のものの見方や考え方について知ることができる。</p> <p>○見開き2ページを1タイトルとして, 全85タイトルで構成され, 余裕のある構成になっている。</p>
S	<p>○A 4判で, 実物大の史料写真を掲載したりフォントサイズを大きくしたりして, 読みやすくなるよう配慮されている。(p. 89)</p> <p>○総ページ数が323ページと多く, 見開き2ページを1単位時間として120のタイトルで構成されている。うち約53%を近現代が占めている。</p>	<p>○世界の動きについての年表が詳しく記述され, 日本の歴史と世界の動きとを関連付けて学べるよう工夫されている。(p. 294)</p> <p>○時代区分ごとの学習課題を設け, 年表や地図を使ったまとめができるようにして, 時代の特色をとらえるよう工夫されている。(p. 11, 54-55)</p>	<p>○各時代のとびらページは, 地図とその時代に適したテーマに沿った写真を示したり, タイトル名を工夫したりするなど, 興味・関心を引き出すよう配慮されている。(p. 10-11, 118)</p> <p>○火おこしや綿から糸を紡ぐことに挑戦するという実験・実習等のページがあり, 興味・関心を引き出すよう工夫されている。(p. 31, 168)</p>	<p>○「戦場は中国だった一日露戦争」の側注に, 「竹島の領有」について, 島根県への編入が閣議決定されたことが記述されている。(p. 199)</p> <p>○石見銀山について, 実物大の石見銀を載せるとともに, コラム「フォーカス」において石見銀山の開発について説明されている。(p. 89, 94)</p>	<p>○表紙裏に世界地図, 裏表紙裏に日本地図を配し, 地図で確認しながら学べられるよう工夫されている。</p> <p>○学習のまとめは, 各章ごとの基礎・基本について振り返る課題と時代の変化について話し合う課題が設けられており, 基礎・基本の定着と時代を大きくとらえる見方が育まれるよう工夫されている。(p. 142-143)</p>	<p>○教科書の終末に19ページにわたる図表を使った縦型の年表を設け, 歴史の流れをとらえられるよう配慮されている。</p> <p>○民衆の目から見た歴史の記述が多く, 民衆史について考えられるよう工夫されている。(p. 101)</p>	<p>○多くの資料が掲載されており, 教科書掲載の地図や記述そのものを資料として活用できるよう配慮されている。</p> <p>○世界の動きについての年表が詳しく記述され, 日本の歴史と世界の動きとを関連付けて学べるよう工夫されている。(p. 294)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【社会（公民的分野）】 No. 1

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○AB判になっており、見開きページあたりの図表、写真等の資料が多く掲載され、複数の資料をもとに社会的事象について考えるための工夫されている。(p.8-9)</p> <p>○写真や図に説明がつけられたものがあり、資料の理解がしやすいよう工夫がされている。(p.36-37)</p>	<p>○地理及び歴史的分野で学んだ内容と関連付けて思考することができるようマークが示してある。(p.16)</p> <p>○一単位時間のページは、学習のきっかけや追究の中心資料、学習目標が示され、終了後には内容のまとめができるような課題を設けるという構成となっている。(p.8-9)</p>	<p>○各章のはじめに、章の学習にかかわる内容で生徒自身が多様に意見を出せる身近なテーマが取り上げられており、作業やシミュレーションを通して学べる工夫がされている。(p.34)</p> <p>○仕事やボランティア活動等に携わる人のインタビューコラムを7か所載せ、内容への理解や関心を深める工夫がされている。(p.65)</p>	<p>○竹島問題について、「日本固有の領土」「韓国によって不法に占拠」と本文に記述されるとともに、特設ページにおいて、領土問題の経緯や国際司法裁判所への付託等について記述されている。(p.171,195-196)</p> <p>○石見銀山遺跡について、世界遺産登録の背景に地域住民の保存活動があったことや現在市内の小・中学校が世界遺産学習に取り組んでいることが紹介されている。(p.23)</p>	<p>○「公民にチャレンジ」のコーナーが全体で20カ所あり、個人やグループで作業や話し合い活動を行って、本文での学習を深められるよう工夫されている。(p.49)</p> <p>○終章ではレポート作成について課題設定、調査方法、まとめまでの事例や方法が詳細に示してある。(p.205-212)</p>	<p>○導入やまとめに、資料をもとに話し合ったり、観点をもとに自分の考えを文章化したり、見方や考え方を生かして企画を練ったりするなどの多様な言語活動が設定してある。(p.164)</p>	<p>○各章や各時で、問題の探究、社会参画を促す過程で構成されている。特に、終章では「持続可能な社会の形成」をテーマに、学んだことを深化させ、参画意識をもたせるよう促している。(p.205-212)</p> <p>○個人やグループで行う作業や活動が随所であり、思考・判断・表現などの力を付けていく工夫がされている。(p.11)</p>
G	<p>○AB判になっており、見開きページあたりの図表、写真等の資料が大きく掲載され、複数の資料をもとに社会的事象について考えるための工夫がされている。(p.12-13)</p> <p>○用語や本文が難しい場合は側注解説がなされるとともに、その事象の背景や影響などの補足説明も示され、生徒の理解を促す工夫がなされている。(p.14)</p>	<p>○一単位時間のページは、学習のきっかけや追究の中心資料、学習目標が示され、終了後に内容のまとめができるような課題を設けるという構成となっている。(p.12-13)</p> <p>○ディベート及びシミュレーションなどの活動では、活動の手順を明確に示し、思考力・判断力・表現力を付ける工夫がされている。(p.58,102)</p>	<p>○各章の導入部分に、災害復旧のボランティアや模擬裁判、福祉体験などの中学生が学ぶ姿を取り上げ、そこで興味・関心を高める工夫がされている。(p.11)</p> <p>○「公民の窓」「クリップ」の計40コラムで学習に関連した内容を掘り下げて解説することで興味・関心を広げる工夫がされている。(p.17)</p>	<p>○竹島問題について、「日本固有の領土」「韓国が領有権を主張」「不法に占拠」「国際司法裁判所での話し合いによる解決を提案」と本文に記述されている。(p.181)</p> <p>○大田市の中村ブレイスが資料として半ページ分取り上げられ、島を掘り下げて解説することで興味・関心を広げる工夫がされている。(p.155)</p>	<p>○ノートのとり方について取り上げている。自分の意見や人の発言を聴いて調べたいと思ったことを書くななど、自学の視点が示してある。(巻頭4)</p> <p>○終章には公民学習のゴールとして、課題を設けて調べたことを根拠として自分の指針を示す「未来への私の約束」を作成する学習が設定されている。(p.207-214)</p>	<p>○東日本大震災について、文化の継承、天皇の国事行為、国際協力、電力政策を考える資料として記載されている。(p.22,41,68,108,178,203)</p>	<p>○「公民で意識したい学び方」や資料の読み解き方の視点を示し、読み解いた内容をもとに説明する活動を随所に取り入れている。(巻頭4, p.17,25)</p> <p>○内容のまとめでは、学習内容の確認を行って知識の定着を図ったり、因果関係を説明したりする工夫が毎時間できるようになっている。(p.88-89)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【社会 (公民的分野)】 No. 2

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容, 程度, 分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5 発展的学習, 自学自習についての工夫	6 その他	
I	<p>○B5判になっており, 写真や資料が精選されている。本文も一文を短くしてあり, 社会的事象を端的に理解しやすい工夫がなされている。(p. 26-27)</p> <p>○用語や本文が難しい場合はそのページの中で詳しく解説されている。さらに, その項目の背景や影響などの補足説明もされている。(p. 46)</p>	<p>○各時のページに学習目標が記載されるとともに, キャラクターが目標を追究する手がかかりや補足説明を吹き出しで示し, 内容理解を促している。(p. 34)</p> <p>○巻頭の世界地図, 世界の多くの国の中学生の背景や影響などの補足説明もされている。</p>	<p>○「深める公民」の11コラムで学習に関連した内容を掘り下げて解説することで興味・関心を高める工夫がされている。(p. 32-33)</p> <p>○各編の最初に, 内容に関係する著名人の言葉や説明, 関連写真を取り上げ, 生徒の興味・関心を高める工夫がされている。(p. 7)</p>	<p>○竹島問題について, コラムの中で「日本の…(略)…固有の領土」「韓国が島を占拠」「日本は国際法にのっとり, 平和的な解決を求めている」と記述されている。(p. 163)</p> <p>○「効率と公正」については集団内の問題解決時に全員が同意できる方法として, 身近な事例を挙げて記述されている。(p. 21)</p>	<p>○各編末に, 重要語句について説明する発展的な課題と, 基礎的・基本的な問題があり, 基礎から応用までの段階に応じて自学自習に取り組む工夫がされている。(p. 98)</p> <p>○最終章の「もっと知りたい公民」において, 卒業論文の作成を通して, 持続可能な社会を築くためにテーマ設定し追究する学習のしかたを示している。(p. 186-187)</p>	<p>○表紙裏の世界地図と裏表紙前の現代社会の動きの年表があり, 地理的分野や歴史的分野での既習事項と関連付けて学習が進められるよう配慮されている。</p>	<p>○巻頭の世界地図, 世界の多くの国の中学生の写真, 巻末の日本各地の世界遺産の写真, 戦後の年表は地理的分野・歴史的分野との関連に配慮されている。</p> <p>○「深める公民」の11コラムで学習に関連した内容を掘り下げて解説することで興味・関心を高める工夫がされている。(p. 32)</p>
K	<p>○AB判になっており, 見開きページあたりの図表, 写真等の資料が大きく掲載され, 複数の資料をもとに社会的事象について考えるための工夫がされている。また, 本文と資料の配置が一定で見やすい誌面になっている。(p. 6-7)</p> <p>○理解が難しい用語や文章はイラストや側注解説を用いて説明されている。(p. 18, 24)</p>	<p>○一単位時間のページは, 学習のきっかけや追究の中心資料, 学習目標が示され, 終了後には内容のまとめができるような課題を設けるといった構成となっている。</p> <p>○内容のまとめでは, 学習内容の確認を行って知識の定着を図ったり, 因果関係を説明したりする活動が毎時間できるような工夫がされている。(p. 28)</p>	<p>○各部の学習の導入「学習の前に」では見開き2ページにわたり大きなイラストがあり, それを見ながら変化の様子を読み取ったり, 考えたりすることができるようになっていく。(p. 2, 3)</p> <p>○各時の導入の「クローズアップ」では最近の話題や身近な話題を学習内容にそって取り上げている。(p. 4)</p>	<p>○竹島問題について, 「日本固有の領土」「韓国が…(略)…不法に占拠」と本文中に記述されている。側注には, 編入の経緯とサンフランシスコ平和条約について記述されている。(p. 168-169)</p> <p>○全編を通して具体例を基に「対立と合意」「効率と公正」の見方や考え方が身に付くような構成となっている。(p. 22-27, 55, 109)</p>	<p>○「トライアル公民」では意見をまとめたり話し合ったりして, 学習内容をさらに深められるよう工夫されている。(p. 26, 27)</p> <p>○各章末に第5部でのレポート作成に向けての課題づくりの視点が示され, レポート作成を進めやすい配慮がされている。(p. 5, 7, 28)</p>	<p>○「持続可能な社会」に向けて各地域の取り組みを紹介するページで, 東日本大震災後の「防災とまちづくり」を取り上げていく。(p. 98-99)</p>	<p>○各時の導入の「クローズアップ」では最近の話題や身近な話題を学習内容にそって取り上げている。(p. 18)</p> <p>○小単元のページ下部にレポートの課題例, 各章末に「第5部への準備」として学習内容に応じて課題を考える視点が示され, レポート作成を進めやすい配慮がされている。(p. 19)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【社会 (公民的分野)】 No. 3

発行会社	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容, 程度, 分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5 発展的学習, 自学自習についての工夫	6 その他	
O	<p>○A B判になっており, 見開きページあたりの図表, 写真等の資料が多く掲載され, 複数の資料をもとに社会的事象について考えるための工夫がされている。(p. 6-7)</p> <p>○本文に関連して学習内容の理解を進めるための補説コラムなどの情報を豊富に配置している。(p. 15)</p>	<p>○一単位時間のページは, 学習のきっかけや追究の中心資料, 学習目標が示されるという構成となっている。(p. 4-5)</p> <p>○内容のまとめでは, 学習内容の確認を行って知識の定着を図ったり, 因果関係を説明したりする活動が毎時間できるように工夫されている。(p. 30)</p>	<p>○「チャレンジ公民」「公民+α」「明日に向かって」では最近の話題や身近な話題を学習内容にそって取り上げられている。(p. 15, 50, 72)</p> <p>○各編の導入にイラストを用いて課題を考え, 活動が設定され, 学習内容の見通しや関心・意欲がもてる工夫がされている。(p. 2)</p>	<p>○竹島問題について, 「日本固有の領土」「韓国が…(略)…不法に占拠」「サンフランシスコ平和条約でも…(略)…確認」と本文中に記述されている。側注には, 「国際司法裁判所に訴えて平和的に解決することを韓国に提案」と記述されている。(p. 179)</p> <p>○「受けつぎ, 創造する日本の文化」として大田市の石見神楽に取り組み中学生が資料として取り上げられている。(p. 19)</p>	<p>○毎時間, 学習課題やキーワード, 学習の確認と活用が明記されており, 予習でキーワード調べをし, 復習で学習の確認と活用に取り組めるよう工夫がされている。(p. 4)</p> <p>○終章はレポート作成を通じて「持続可能な社会のあり方」を考えさせるヒントとして, テーマ例や作成のヒント, 発表方法まで詳細に取り上げている。(p. 205-216)</p>	<p>○東日本大震災については, 「持続可能な社会」の形成の観点に基づいて, エネルギー問題や防災について理解を深めるコラムが設けられている。(p. 104-105)</p>	<p>○事例の解決から, 多面的な物の見方・考え方や話し合いの技能, 情報の読み取りの技能などを身に付ける特設ページを教科書全体に設けている。(p. 72, 84)</p> <p>○本文に関連して中心資料, 補説コラムなどの情報を豊富に配置されるとともに, 重要語句をキーワードにして表示されている。(p. 15)</p>
Q	<p>○B 5判になっており, 写真や資料が精選されている。本文も簡潔にまとめられ, 社会的事象を整理してとらえられるよう配慮されている。(p. 2, 3)</p> <p>○理解が難しい用語や文章は, そのページに側注解説がなされ, 文字や図, 写真を使って説明されている。(p. 2)</p>	<p>○一単位時間のページには, 学習のきっかけや追究の中心資料, 学習目標が示され, 終了後には「ここがポイント」として内容のまとめが示された構成となっている。(p. 2, 3)</p> <p>○各章のはじめに歴史学習での既習内容から公民学習に入る工夫がされている。(p. 2, 3)</p>	<p>○「もっと知りたい」や「ミニ知識」で学習に関連した内容を資料をもとに解説することで興味・関心を高める工夫がされている。(p. 11, 12-13)</p> <p>○学習を深めるために, 内容に関連した歴史上の人物や著名人が写真や説明で取り上げられている。(p. 34)</p>	<p>○竹島問題について, 「わが国固有の領土」「韓国が不法に占拠」と本文中に記述されるとともに, 特設ページで竹島問題の経緯と平和的な解決について記述されている。(p. 145, 149)</p> <p>○各所で「効率と公正」「対立と合意」の見方や考え方をを用いて問題解決することを記述している。(p. 28, 29, 171)</p>	<p>○章末の「学習のまとめ」で, 重要語句を確認する, 字数制限を付けて課題をまとめるといった発展的な学習や自学自習ができるコーナーが設けられている。(p. 18)</p> <p>○卒業論文, ディベートについて章末に記載があり, 特にディベートについては賛成例, 反対例を示してあり, 課題に取り組みやすい工夫がされている。(p. 184-193)</p>	<p>○「もっと知りたい」で国連の役割やPKO活動などについて詳細な記載があり, 国際協調や国際平和について考えさせる資料を取り上げている。(p. 166)</p>	<p>○多くの単元で, 歴史学習を想起させる記述から公民的分野の学習に入る工夫がされている。(p. 2)</p> <p>○各章末で, 重要語句を確認する, 字数制限をつけてまとめる, 学習の発展では400字で課題をまとめるといった発展的な学習や自学自習ができるコーナーが設けられている。(p. 18)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【社会（公民的分野）】 No. 4

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
R	<p>○A B判になっており、見開きページあたりの図表、写真等の資料が大きく掲載されるとともに、事象や資料に対する説明が詳しくなされており、広く知識を身につける工夫がされている。(p. 18-19)</p> <p>○学習内容に関連した条文や法令、条約、または側注解説を載せ、生徒の理解を促している。(p. 12, 50)</p>	<p>○一単位時間のページは、学習のきっかけや追究の中心資料、学習目標が示され、終了後には内容のまとめができるような課題を設けるという構成となっている。(p. 12-13)</p> <p>○内容のまとめでは、学習内容の確認を行って知識の定着を図ったり、因果関係を説明したりする活動が毎時間できるよう工夫されている。(p. 42)</p>	<p>○巻頭の「なぜ公民を学ぶのか」では15歳からの自分の過去・現在・未来シートを考えさせ、公民学習と自分との関わりを示している。(p. 2-5)</p> <p>○各章の始めにある「法の入り口」「経済の入り口」などで、身近な問題を取り上げ、自分の意見を記述できるような活動が設定されている。(p. 44)</p>	<p>○竹島問題について、「日本固有の領土」「韓国が領有を主張し、不法占拠」と記述されるとともに、地図の解説や特設ページで歴史的な経緯や国際司法裁判所への付託等について記述されている。また、口絵でも竹島問題を取り上げ、「竹島の日」について記述されている。(巻頭口絵11, p. 177-179)</p> <p>○「対立と合意」「効率と公正」などの見方や考え方を具体的な事例を通して学べるようにしてある。(p. 38-41)</p>	<p>○「やってみよう」は、それまで学んできたことをもとに、自分で考えて判断する、説明するなどの課題が設定されている。(p. 22, 23)</p> <p>○最終の「社会科のまとめ」では「持続可能な社会を築くための国づくり構想」をテーマに内閣総理大臣として政策提案のレポートを作成する学習を設定している。(p. 209-215)</p>	<p>○東日本大震災について、被害の実態や郷土愛について記述され、別の見開きページにも国民の絆、世界の絆の視点で具体的な事例をあげて記載されている。(p. 19, 194, 195)</p>	<p>○巻頭の「なぜ公民を学ぶのか」では15歳からの自分の過去・現在・未来シートを考えさせ、公民学習と自分との関わりを示すことで興味・関心を高める工夫がされている。(p. 2-5)</p> <p>○各章の始めにある「法の入り口」「経済の入り口」などで、身近な問題を取り上げ、自分の意見を記述できるような活動が設定されている。(p. 44)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

発行会社	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○各地域の「テーマ資料」においてグラフなどが地図資料とは別に独立して配置されており、読み取りやすい工夫がされている。(p. 32)</p> <p>○世界の宗教について、代表的な建造物の写真と共に見開き2ページにまとめてあり、分布や伝播の経路についてとらえやすく示されている。(p. 17, 18)</p>	<p>○地図記号やさくいんの使い方、主な産業の記号など地図帳の活用方法がキャラクターのこりと共に具体的に示されている。(p. 4-6)</p> <p>○各地域の資料のページは、「基本資料」では、自然や人口など共通事項を「テーマ資料」では、産業や食生活について各地域の特色ある資料が掲載されている。(p. 43-46)</p>	<p>○各地域の地図ページでは、タイトル枠の下部に「～で注目したい記号」を示し、その地域を学習するためのポイントが明らかになるよう工夫されている。(p. 25)</p> <p>○世界全体の主題図は、世界自然遺産、環境、生活文化等の写真や図が掲載されており、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 11-18)</p>	<p>○中国地方の地図では、竹島を5万分の1の縮尺とし、地形がとらえやすく示されている。日本の周辺地図では、竹島の航空写真と共に日本固有の領土であることや韓国が不法に占拠していることについて説明されている。(p. 83, 182)</p> <p>○島根県について、隠岐が世界ジオパーク、石見銀山が世界遺産であることのほか、特産物や伝統工業などが記号やイラストで示されている。(p. 83, 84)</p>	<p>○資料のページでは、先生や生徒のキャラクターが資料を読み取るポイントを話し、資料を読み取る力を高めることができるよう工夫されている。(p. 43-46)</p> <p>○都道府県の産品と名所・お国自慢の資料があり、各都道府県を理解するための動機づけになるよう工夫されている。(p. 180)</p>	<p>○資料中「ジャンプ」マークにより、世界や日本などの複数の資料を関連させて学習ができるよう工夫されている。(p. 36)</p> <p>○日本の生活と文化のページでは、各地の郷土料理の写真やご当地キャラクターが掲載され、生徒が興味をもって主体的に学習できるよう工夫されている。(p. 154)</p>	<p>○各地域の地図ページでは、タイトル枠の下部に「～で注目したい記号」を示し、その地域の特色をとらえるための工夫がされている。(p. 25)</p> <p>○他の地域やテーマとの関わりを考えるために「ジャンプ」のマークによって関連するページと資料名が示されており、複数の資料を比較・関連させて読み取る力を育む配慮がなされている。(p. 36)</p>
K	<p>○各地域の地図、資料のページともに各地の特色がとらえやすい記述や資料、グラフなど学習に必要な情報が適切に配置されている。(p. 49-50)</p> <p>○世界の宗教について、分布や人口の割合、信仰の様子を示す写真が見開き2ページにまとめられており、また、世界の諸地域の資料でもより詳しい分布の様子や人口に占める割合のグラフが示されている。(p. 17, 18, 39)</p>	<p>○地図帳の使い方について、地図記号や地図帳の構成、地域の特色をとらえるポイント、地形図の読み取り方が具体的に示されている。(p. 4-8)</p> <p>○「東アジアと日本～大陸から日本を見わたす地図～」が掲載され、大陸からの視点で日本を見ることができると共に古代の交通ルートも示され、歴史的な分野でも活用できるよう工夫されている。(p. 31, 32)</p>	<p>○随所に鳥瞰図が取り入れられており、その地域の産業や建築物の絵、特色ある自然などが配置され、各地域の特色を立体的にとらえることができる。(p. 25, 26)</p> <p>○各地域の地図に「地図を見る目」を設けてあり、読み取る視点が具体的に示され、地形の特色や土地利用などについて、地図を通して考える工夫がされている。(p. 82)</p>	<p>○日本のページの冒頭では、竹島の航空写真と共に、日本の固有の領土であることや韓国が不法に占拠していることについて記述されている。(p. 78-79)</p> <p>○合併前の市町村名が記載されている。また、様々な史跡や遺跡、特産物も記号で示されている。(p. 87, 88)</p>	<p>○各地域の地図や資料に鉛筆のマークで「やってみよう」という課題が示されており、生徒が主体的に学習できるよう工夫されている。(p. 108)</p> <p>○日本のページでは、各地域の資料図の中に「防災」や「環境」についての表記があり、その地域の特色ある取組などが示されると共に公民的分野で活用できるよう工夫されている。(p. 112)</p>	<p>○資料のページに各地域の特徴ある動物や行事などのイラストが盛り込まれ、その地域の特色をとらえることができるよう工夫されている。(p. 61)</p> <p>○世界のページの資料には、「日本との結びつき」の資料が掲載され、貿易を中心に世界と日本との関わりが示されている。(p. 28)</p>	<p>○各地域の地図、資料のページとも各地の特色がとらえやすく、随所に取り入れられた鳥瞰図ではその地域の自然や産業、建築物の絵などが示され、各地域の地形などの特色を立体的にとらえることができるような工夫がされている。(p. 25, 26)</p> <p>○「地図をみる目」「やってみよう」などの課題が示され、生徒が主体的に学ぶことができるよう工夫されている。(p. 82, 108)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○説明を補う内容として「ふせん形式の図解」を設け、視覚的に理解しやすいよう工夫されている。(1年p. 19)</p> <p>○各節は、「例」「たしかめ」「問」「もっと練習！」で構成されており、スモールステップで学習できるよう配慮されている。(1年p. 39)</p>	<p>○「関数領域」では、表・式・グラフを相互に関連付けたまとめ方がしてあり、思考力や表現力を高められるよう配慮がされている。(1年p. 121, 2年p. 64)</p> <p>○3年「平方根」では、「素因数分解」を1節「平方根」の最後に配列することで、「根号をふくむ式の計算」で素因数分解を利用しやすくしている。(3年p. 46-47)</p>	<p>○関数の考え方のよさや有用性を感じられるよう、1年「比例と反比例」の導入では、身近な生活場面での出来事を扱っている。(1年p. 104, 105)</p> <p>○身近な生活場面の問題である自転車の制動距離やソーラーパネルの話題などを扱い、興味・関心が喚起されるよう配慮されている。(3年p. 110, 185)</p>	<p>○「学び合い」のページでは、右ページ始まりとすることで、すぐに考え方の例が見えやすい工夫がされている。(1年p. 45, 2年p. 103, 3年p. 141)</p> <p>○1年「平面図形」では、学習過程を通して基本的な用語や記号を必要に応じて学ぶことができるよう、1節に「図形の移動」を配列している。(1年p. 142)</p>	<p>○本文中の「まちがい例」では、典型的な誤りを取り上げ、「まちがいなおし」では、正しい解答例を自分で確認できるようにまとめている。(1年p. 91, 279)</p> <p>○小学校の復習が個人でできるよう、「巻末問題編」では、「算数のふりかえり～まとめ編・たしかめ編～」を設けている。(1年p. 228-235)</p>	<p>○ノートの効果的な活用例を示し、思考力や表現力などが高められるよう配慮されている。(1年p. 50-51)</p> <p>○2年巻末には、「三角形と四角形」で使う、「図形の性質発見器」が添付されている。(2年p. 229)</p>	<p>○各節は、「例」「たしかめ」「問」「もっと練習！」で構成され、スモールステップでの学習ができるよう配慮されている。(1年p. 39)</p> <p>○3年間の学習のつながりを確認し、自学自習ができるよう、3年生の巻末には、「学びのつながり」という見開きページを設け、数学の系統性を示している。(3年p. 212-217)</p>
B	<p>○習熟を図るための練習問題を複数ページ設け、基礎・基本の定着を図るよう配慮されている。(1年p. 32-33)</p> <p>○基本的に見開き2ページを1つの小節とすることで、内容を簡潔にまとめ、学習の流れを確認しやすくしている。(2年p. 70-71)</p>	<p>○例題や解き方を学習した後問題に解くという構成ではなく、実際に問題を解きながら、その解法や内容について理解を深めていくという構成となっている。(1年p. 78-79)</p> <p>○1年「平面の図形」では、線と線との交わりを交点と定義するなど、より一般的あるいは感覚的なとらえ方で説明している。(1年p. 160)</p>	<p>○各章の冒頭や終末のページの写真や文の構成等を視覚にうったえらるようなレイアウト及び内容とすることで、興味・関心を喚起するよう工夫されている。(1年p. 95, 2年p. 177)</p> <p>○巻末の「Mathful(マスフル)」では、領域別にさまざまな話題を取り上げ、興味・関心を高める読み物資料となっている。(2年p. 201)</p>	<p>○1年「平面の図形」では、「移動と作図の利用」の節が設けてあり、思考力・表現力を高められるよう配慮されている。(1年p. 186)</p> <p>○章末コラム「社会にリンク」を領域ごとに1ページ設け、さまざまな職業や社会の仕組みと数学とのつながり、数学が社会で生かされている例などを示している。(1年p. 58)</p>	<p>○章末には、章の問題以外にも、応用的な問題を扱う「いろいろな問題」を設け、発展的な学習を促すような配慮がされている。(1年p. 56, 57)</p> <p>○巻末の解答例では、個人で答え合わせがしやすいよう、内容やレイアウト、色使いが配慮されている。(1年p. 300-301, 2年p. 232-233)</p>	<p>○各章の扉の写真は、学習内容を連想させるものを用いたり、学習に期待感を抱かせるものとなっている。(2年p. 177)</p> <p>○途中の計算式や作図の補助線がそのままかきこめるよう、スペースが確保されている。(1年p. 32, 184)</p>	<p>○章の扉と章末の「社会にリンク」、あるいは巻末の読み物のつくりなど、その内容や写真のレイアウトが、視覚的に興味・関心を喚起するような編集・構成となっている。(2年p. 176-177)</p> <p>○数と式及び図形領域の練習問題では、途中の計算や作図の補助線が描きやすいよう、行間及び問題間のスペースが確保されている。(1年p. 50, 226)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【数学】No. 2

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
E	<p>○数と式領域では、「計算力を高めよう」という基本問題を設け、技能を確実に習得できるよう工夫されている。(1年p. 35, 55)</p> <p>○メモ書き風の囲みを設け、操作をイメージ化したり、説明を補ったりするなど、理解を助けるよう工夫されている。(1年p. 78)</p>	<p>○章の途中に「深めよう」や「クローズアップ」などを設け、学習した事柄を深めたり広げたりできるよう工夫されている。(1年p. 59)</p> <p>○各節の終わりでは、生徒のイラストキャラクターが会話をすることで、生徒の疑問や考えに沿って、次の節につなげられるよう配慮されている。(1年p. 42)</p>	<p>○立体の投影図、多角形の外角の和、三平方の定理の説明をパラパラ漫画で視覚的にわかるよう工夫されている。(1年p. 209-229, 2年p. 117-137, 3年p. 195-233)</p> <p>○「クローズアップ」では、「0で割ること」「反比例なのに比例定数？」など、生徒の抱く素朴な疑問などを扱っている。(1年p. 46, 142)</p>	<p>○巻頭には、前学年の内容をもとにした問題を使って、「数学で使われる考え方(類推, 帰納, 演繹)」を設け、数学的な見方・考え方を養う工夫がされている。(全学年p. 8)</p> <p>○表現力を高めるガイドや発展的な課題を設け、思考力・判断力・表現力を高める工夫がされている。(1年p. 259)</p>	<p>○各領域の前に「ふりかえり」を設け、前学年までの学習内容を復習・確認できるよう配慮されている。(全学年p. 10, 11)</p> <p>○各学年の巻末問題「□年の復習」では、基礎的・基本的な問題番号に印がしてあり、個に応じた学習ができるよう配慮されている。(1年p. 278-284, 2年p. 223-228)</p>	<p>○章別の爪をすべてのページに設け、学習内容を探しやすいよう工夫されている。</p> <p>○「空間図形」の冒頭に、仁摩サンドミュージアムの写真を掲載している。(1年p. 195)</p>	<p>○数と式の領域では、基礎的・基本的な計算力の習得のため、「計算力を高めよう」という練習問題を設けている。(1年p. 35, 55)</p> <p>○巻末の「さらなる数学へ」「表現する力を身につけよう」に表現力を高めるガイドや発展的な課題を設け、思考力・判断力・表現力を高める工夫がされている。(1年p. 259-276)</p>
G	<p>○解答を2種類示したり、丁寧な説明がしてあったりして、自ら学習に取り組むことができるよう配慮されている。(2年p. 24)</p> <p>○数と式領域の例題では、色矢印を使って、式変形の根拠を1行1行丁寧に説明することで、発達の段階や個人差への配慮としている。(1年p. 36, 76)</p>	<p>○各章の冒頭に、「学習をする前に」が設けられ、既習事項の確認とこれからの学習への準備が図られるよう配慮されている。(1年p. 94)</p> <p>○数学用語の説明にはクリーム色を、定理や重要事項には薄緑色を文章全体の背景につけることにより、大切な事柄が一目でわかるよう工夫・構成されている。(1年p. 172)</p>	<p>○実生活の中で活用されている数学の内容や興味を抱きそうなトピックなどを取り上げ、興味・関心を高めるよう工夫されている。(3年p. 163, 188)</p> <p>○3種類のキャラクターを使いわけ、基本的な内容から発展的な内容について助言を与え、学習に取り組みやすくなるよう配慮されている。(1年p. 104, 105)</p>	<p>○巻末には、「数学で大切にしたい考え方」として、類推的、帰納的、演繹的な考え方を具体的な問題を通して紹介している。(1年p. 262, 2年p. 200, 3年p. 238)</p> <p>○「みんなで数学」では、複数人で学習できるような題材を取り上げ、思考力・表現力を高められるよう工夫されている。(1年p. 82, 83)</p>	<p>○章末の練習問題である「章の問題」には、各問題が4つの観点別に自己評価できるようになっており、各自で復習・確認できるよう配慮されている。(1年p. 54, 55)</p> <p>○各章末にある「学習のまとめ」では、重要な内容をまとめてあるだけでなく、書き込みながら確認できるよう工夫されている。(3年p. 167)</p>	<p>○2, 3年巻末には、ノートに貼ることのできるグラフ用紙が添付されている。(2年p. 247, 3年p. 291)</p> <p>○3年巻末の「ひろがる数学」では、中学の学習内容をさらにすすめたものを紹介することで、数学の世界の広がり伝える。(3年p. 252, 253)</p>	<p>○1年巻末には、カラー9ページを使って、「小学算数のまとめ」を掲載し、1年生の学習内容と関連づけながら復習・確認できるようにしている。(1年巻末)</p> <p>○解答を2種類示すなど、いろいろな考え方について言及してあり、自らの考えで学習に取り組むことができるよう配慮されている。(2年p. 24)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【数学】No. 3

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
M	<p>○全学年に別冊《Math Navi》がついており、既習事項の確認や予習課題、活用問題としても使うことができるよう工夫されている。</p> <p>○基本的な内容について、「例、例題」「問」という細かいステップで学習することで、発達段階や個に応じた配慮がなされている。(2年p. 41, 42)</p>	<p>○基礎的・基本的な内容を扱う、「例」「例題」にはタイトルをつけ、学習内容を明確にするよう工夫されている。(1年p. 72)</p> <p>○2年「連立方程式」、3年「二次方程式」では、1年での記載内容をそのまま掲載することで、3年間を通して繰り返し学び直せるよう工夫されている。(1年p. 99, 2年p. 47, 3年p. 78)</p>	<p>○学校生活での出来事など、身近な場面設定がされており、生徒の興味・関心を高めるような題材を取り上げるよう配慮されている。(2年p. 118)</p> <p>○「円周角の定理発見ディスク」を巻末付録として添付し、操作活動を通して、興味・関心をもって学習できるよう工夫されている。(3年p. 263-267)</p>	<p>○2年「式の計算」では、誤答例から誤答の理由を考えさせることで、意味理解をより深められるよう工夫されている。(2年p. 24)</p> <p>○「みんなで話し合ってみよう」「自分のことばで伝えよう」「自分の考えをまとめよう」を設け、思考力・表現力を高められるよう配慮されている。(1年p. 29, 2年p. 91, 114)</p>	<p>○各章末の「基本のたしかめ」では、学習内容とその学習ページが示してあり、基礎的・基本的な学習内容の定着が各自で確認・復習できるよう配慮されている。(1年p. 50, 2年p. 144)</p> <p>○巻末「数学広場」では、個人の興味・関心に応じて多様な活用問題に取り組むことができるよう配慮されている。(1年p. 239-259)</p>	<p>○数学の見方・考え方やノートの取り方の例、ポイント等を掲載し、学習の進め方について助言している。(全学年p. 6-11)</p> <p>○1年「空間図形」の導入には、仁摩サンドミュージアムの航空写真が掲載されている。(1年p. 166)</p>	<p>○本冊（必修内容をまとめたもの）と別冊（練習問題の解答や習熟度に応じた内容をまとめたもの）にわけることによって、本冊の基礎的・基本的問題を充実させている。</p> <p>○「みんなで話し合ってみよう」「自分のことばで伝えよう」「自分の考えをまとめよう」を設け、表現力の育成と協働的な学びになるよう配慮されている。(1年p. 29)</p>
N	<p>○学びを導くキャラクターが登場し、個に応じて学習がすすめられるよう工夫されている。(2年p. 67)</p> <p>○「ふりかえり」では、本文中の事柄と密接に関係する既習の内容と学習ページが示され、復習できるよう配慮されている。(1年p. 37)</p>	<p>○巻頭に前学年の基礎的・基本的な内容の問題「クイックチャージ」を設け、学んだことを復習・確認したうえで、学習をすすめることができる構成となっている。(2年p. 4-13)</p> <p>○表や図、式だけでなく、色分けを有効に使うことで、理解を促すよう工夫されている。(1年p. 176, 2年p. 105, 107)</p>	<p>○各章の導入では、見開き2ページを使って課題が提示され、その課題をもとに学習が展開されるよう工夫されている。(1年p. 110-111)</p> <p>○巻末の「数学探検」では身のまわりにある数学について話題を提示し、興味・関心を喚起するような内容となっている。(1年p. 225-238, 2年p. 175-186)</p>	<p>○言葉や式で表現したり、読み取る力を伸ばしたりするため、根拠や考え方を問う問題を扱い、数学的活動の充実を促すよう工夫されている。(1年p. 93)</p> <p>○成り立たない例を考える課題や、理由を説明する課題を取り上げることで、思考力・表現力を高められるよう工夫されている。(1年p. 53, 177)</p>	<p>○「NOTE」というコーナーを設け、ノートの取り方について助言することで、まとめる力や表現力を育成できるよう配慮されている。(1年巻頭p. 53, 56, 89)</p> <p>○3年巻末「ひろがる数学の世界」では、中学の学習内容をさらにすすめたものを紹介することで、数学の世界の広がりを伝えている。(3年巻末)</p>	<p>○表紙裏に、仁摩サンドミュージアムの写真が大きく掲載されている。(1年表紙裏)</p> <p>○「問」の中で、少しタイプが変わる問題や難易度が高くなる問題には印をつけ、注意を促す配慮がされている。(3年p. 20)</p>	<p>○巻頭に前学年の基礎的・基本的な内容の練習問題「クイックチャージ」を設け、学んだことを復習・確認したうえで、学習をすすめることができる構成としている。(1年p. 4-11, 2年p. 4-13, 3年p. 4-13)</p> <p>○本文の記述は「例」と「問」を中心としたシンプルな流れで学習内容が整理されており、理解を促す配慮がされている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
○	<p>○基本的に見開き2ページを1つの小節とし、学習の流れが確認しやすくなっている。(2年p. 100, 101)</p> <p>○本文の「問」や節末の「基本の問題」は、「例」と同程度の問題となっており、基礎的・基本的な内容を確実に定着できるよう配慮されている。(1年p. 45, 49)</p>	<p>○すべての章の直前には復習問題のページが設けてあり、既習事項の確認ができる構成となっている。(1年p. 57)</p> <p>○例・例題の「解答例」だけでなく、「問」にもノート形式の記述を多用することで、ノート整理や考えをまとめる際の参考となるよう工夫されている。(1年p. 231, 2年p. 158, 3年p. 119)</p>	<p>○章の扉にある導入問題では、見開き2ページを使って課題が提示され、その課題をもとに学習が展開されるような構成になっている。(3年p. 72, 73)</p> <p>○「生活への利用」や「深める数学」が、各章末に設けられ、その章で学んだことを深めたり活用したりすることで、興味・関心を高められるよう工夫されている。(1年p. 118)</p>	<p>○巻頭の「数学の学習で大切なこと」では、考えを伝え合うことについて「数学の言葉」を積極的に使うことなど、具体的なポイントが示されている。(1年p. 7)</p> <p>○誤った考え方を提示し、その考えが正しくない理由を説明させることで、意味理解をより深められるよう工夫されている。(2年p. 173)</p>	<p>○巻末「数学マイトライ」のB問題では活用問題を取り上げ、思考力・判断力・表現力の育成ができるよう配慮されている。(1年p. 277)</p> <p>○節末問題「基本の問題」と章末問題「章のたしかめ」では、各問題が4つのどの観点に主にかかわる問題かを明示し、各自で自己評価できるようにしている。(1年p. 49, 54)</p>	<p>○表紙裏の複数枚の写真では、数学の美しさを感じ取れるようなものを掲載している。</p> <p>○3年裏表紙「数学の歴史」では、数学史だけでなく、多数の数学者の顔が掲載されており、興味・関心が高まるよう工夫されている。</p>	<p>○中学生のキャラクターが、数学用語を使って表現する場面などを示すことで、言語活動充実のための学習につなげられるよう工夫されている。(2年p. 103, 3年p. 119)</p> <p>○巻頭の「この本の使い方」「数学の学習で大切なこと」「ノートの工夫」が具体的に表記してあり、学習の手助けとなるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【理科】 No. 1

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○基本的な内容が精選され、各学年ともゆとりをもって学習が進められるように配慮されている。また、発展的な内容は必修の学習内容と関連を図り、内容、分量とも過度な負担とならないように配慮されている。</p> <p>○1年は、他学年に比べて、文字が大きく、1行の文字数が少なく、小学校からの円滑な移行に配慮されている。</p>	<p>○章のはじめと終わりに、「before&after」が示されており、目的意識をもって学習をすすめ、学習したことの振り返りができるように構成されている。(1年p. 20, 28)</p> <p>○単元に1カ所「じっくり実験しよう」があり、解決方法について話し合ったり、対照実験を考えたりするように構成されている。(2年p. 98)</p>	<p>○学習内容の導入部では、身のまわりの事象の写真をダイナミックに使い、興味・関心を高める工夫がされている。(1年p. 140)</p> <p>○「どこでも科学」では、身近な材料でできる実験やものづくり等を紹介し、学習内容への興味・関心が高められるよう工夫されている。(1年p. 225)</p>	<p>○コラム「科学でGO!」(1年p. 90)や単元末の「ニッポンの科学」(1年p. 60)のように、学習内容と日常生活との関連付けが図られ、科学の有用性が感じられるよう工夫されている。</p> <p>○「書く」や「話す」のマークを明記し、科学的な思考力・表現力を高める活動を多く取り入れている。(1年p. 20, 33)</p>	<p>○章末の「チェック」、単元末の「学習内容の整理」「確かめと応用(活用編)」等、学習内容の振り返りや基礎的な内容の定着が図られるような問題が設けられている。(3年p. 60-64)</p> <p>○単元末に「科学の本だな」として図書が紹介されており、興味・関心を発展的に広げられるようにしてある。(1年p. 67)</p>	<p>○全学年巻末に付録としてペーパークラフトが付いている。平面では把握しづらい空間的に認識する内容の理解に役立つものとなっている。</p> <p>○継続観察を促し意欲づけるページを設け、1年を通して観察時期を逃さないように配慮されている。(2年p. 7)</p>	<p>○学年のはじめに、学習課題とまとめの関連など、探究の流れが例示されており、学習の流れが明確になるよう工夫されている。(1年p. 4-5)</p> <p>○巻頭に、1年は「学習内容を見てみよう」2, 3年は「学習内容のつながり」が示され、小学校から中学校までの学習内容の系統が明確にしてある。</p>
B	<p>○単元末に「終章」を設け、学習した内容を生かし発展的な内容を考察するような課題が設定されている。(1年p. 126)</p> <p>○単元の導入ページで既習事項を振り返るとともに、これから学習することを示し見通しをもって学習できるように工夫されている。(1年p. 22)</p>	<p>○巻頭見開きでダイナミックな写真を掲載し、人類に大きな貢献をした科学者を紹介して科学に対する夢をもって学習に入っていくように工夫している。</p> <p>○観察・実験において、目的と視点が示されており、見通しをもって観察・実験に取り組めるように工夫されている。(1年p. 25)</p>	<p>○「トピック」(1年p. 73)では実験ノートは科学の基本であるといった科学に関すること、「科学史」(1年p. 85)は科学の歴史や科学者に関する話題を紹介している。</p> <p>○1年約30、2・3年約40の発展的テーマが設定され、理科への興味・関心が高められるようにしてある。</p>	<p>○学習内容が日常生活や社会で活用されている例(1年p. 76)や、学習内容と職業との関連がある例(1年p. 110)を取り上げ、理科の有用性に触れている。</p> <p>○公式を扱う学習では、例題と解答例を示すとともに、算数や数学で学習した内容と結びつけることができるように配慮されている。(1年p. 184)</p>	<p>○学習内容を確認するための「問い」を設け、問いの解答を次ページ下に掲載し、確かめをしながら学習をすることができるよう工夫されている。(1年p. 75, 76)</p> <p>○単元末の「単元末問題」の後に「読解力問題」と「サイエンスランド」を設け、思考力・表現力を高める工夫がされている。(1年p. 64)</p>	<p>○各学年のはじめに、継続観察を促し意欲づけるページを設け、1年を通して観察時期を逃さないよう配慮されている。(2年p. 6)</p> <p>○「やってみよう」の中に、「ものづくり」があり、科学の原理や法則についての理解を深め、実生活につながる工夫がされている。(1年p. 254)</p>	<p>○「くらしの中の理科」「トピック」等の資料や、「発展」等の内容が設けられ、主体的・発展的に学習を進めていくことができる構成になっている。</p> <p>○実験結果の例は、図や写真と共に表しており、想定される結果から科学的に考察できるように配慮されている。(1年p. 90)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【理科】No. 2

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
E	<p>○単元の導入ページで既習事項をチェックする問いからはじまり、次ページにこれから学ぶことを示し見通しをもって学習できるように工夫されている。(1年p. 5, 6)</p> <p>○実験における基本操作について取り上げ、写真や図を用いて視覚的に理解できるよう工夫されている。(1年p. 12)</p>	<p>○写真や図表が大きく配置され、学習効果を高める工夫がされている。(1年p. 190)</p> <p>○観察・実験のあとには、「結果」と「考察とまとめ」のタブがあり、観察・実験から得られる学習内容を整理して理解できるように構成されている。(1年p. 16)</p>	<p>○「科学を仕事に活かす～はたらく人たち～」では、学習内容と職業や日常生活との関連がわかり、科学を学ぶ意義や有用性を実感できる配慮がされている。(1年p. 68)</p> <p>○「チャレンジ」ではものづくりや観察等、学習内容の理解を深め、興味・関心を高める工夫がされている。(3年p. 108)</p>	<p>○「話し合ってみよう」や「問い」を設け、思考力・表現力を高められるよう工夫されている。(1年p. 80, 88)</p> <p>○学習内容を活用する問いに「活用」と明記し、考えさせる場を設けている。さらに、くらしの中の事象と結び付けて考え表現する場を設けている。(1年p. 19)</p>	<p>○随所に「科学の窓」を設け、学習内容と関連の深い話題や発展的な内容を、写真やイラストを交えて紹介し、学習内容の理解を深める工夫がされている。(1年p. 25)</p> <p>○単元末の「学習のまとめ」では、重要語句が朱色で示されており、確認しやすいよう工夫されている。(1年p. 70)</p>	<p>○3年巻末資料に「高校へのステップアップ」が示され、高校での学習へのつながりがもてるように工夫されている。(3年p. 300-301)</p> <p>○巻末に各学年のまとめを設け、学習内容を確認しやすいよう工夫されている。(1年p. 284-289)</p>	<p>○既習事項を振り返りながら系統的に学習がつながる構成となっており、基礎・基本を確実に定着できるよう工夫されている。(1年p. 75, 78)</p> <p>○実験・観察の結果例が、詳細なスケッチとともに示され、レポートの記入例として参考になるよう配慮されている。(1年p. 170)</p>
G	<p>○基本的な内容が精選され、各学年ともゆとりをもって学習が進められるように配慮されている。また、発展的な内容は必修の学習内容と十分な関連を図り、内容の程度、分量とも、過度な負担とならないように配慮されている。</p> <p>○脚注で生徒の戸惑いやポイントについての説明がされている。(2年p. 27)</p>	<p>○単元のはじめに、各章ごとの「学んでいくこと」が文章で示されており、学習の流れや他学年での既習事項との関連が示され、学習の見通しがもてるよう工夫されている。(1年p. 8, 9)</p> <p>○観察・実験の「考察」に記述された項目に対するまとめが、すぐあとに明示され、観察・実験の分析・解釈に役立つように配慮されている。(1年p. 16)</p>	<p>○「ハローサイエンス」は、コーナーキューブ等学習した内容が実際の生活、安全、歴史、環境などどのように関わっているか例を挙げ紹介している。(1年p. 77)</p> <p>○マグニチュードと地震エネルギーの関係を球体の体積のイメージで表現するなど視覚的に理解できるよう配慮されている。(1年p. 214)</p>	<p>○巻末資料に「理科で使う算数・数学」を設け、計算にかかわるつまづきをサポートできるようにしている。(1年p. 265)</p> <p>○科学の話題を紹介するミニコラムを見開き紙面の両側の随所に掲載し、学習内容と日常生活との結びつきが図れるように工夫されている。(1年p. 42)</p>	<p>○本文や単元のまとめでは、重要語句が朱色の太文字で示され、科学的な思考や表現を支える言葉を確認しやすいよう工夫されている。(1年p. 44, 62, 63)</p> <p>○単元末の「用語の整理」「基礎基本問題」「活用応用問題」が充実しており、自学自習に役立てることができている。(2年p. 52-57)</p>	<p>○東日本大震災について見開きで資料として扱っている。(1年p. 220)</p> <p>○全学年、巻末に付録が付いている。簡易カメラ、原子のモデルカード等、学習内容の理解と興味・関心を高める内容となっている。</p>	<p>○観察・実験の結果例を写真やイラストなどで掲載し、実験の結果から考えられることを「実験から」や「わたしのレポート」でわかりやすく明記している。(1年p. 12, 16)</p> <p>○「ハローサイエンス」では科学の話題が豊富に示されており、発展的な内容や日常生活との関わりなど、学習が深まるよう工夫されている。(1年p. 98)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【理科】No. 3

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
M	<p>○章の導入ページでは、写真で興味を引き付け、既習事項を振り返り、円滑に学習に入っていくことができるように配慮されている。(1年p.16)</p> <p>○観察・実験が1年24, 2年24, 3年22と精選されており、ゆとりをもって学習が進められるように配慮されている。</p>	<p>○学習の課題を解決するための「考えてみよう」「話し合ってみよう」「活用してみよう」が設定されており、探究的に課題解決できるように構成されている。(2年p.74-77)</p> <p>○読んで理解する「本冊」と自らが書き込み反復学習ができる「マイノート」の2冊構成になっている。</p>	<p>○「部活ラボ」では部活動の中での科学の話題を紹介し、学校生活と理科を結びつけ、興味・関心を高められるよう工夫されている。(1年p.205)</p> <p>○単元末にある「広がる世界」は最新の科学技術を紹介し、科学技術の進展がもたらす未来への期待を高める工夫がされている。(3年p.136-137)</p>	<p>○コラム「ぶれいくtime」を設け、学習内容と日常生活との結びつきが図られるよう工夫されている。(1年p.128)</p> <p>○「サイエンス資料」では、算数・数学との関連を取り上げ、教科をつなぐ配慮がされている。また、話し合いから発表までの仕方を具体例を挙げて説明している。(1年p.252-257)</p>	<p>○各単元の「学習のまとめ」では、色覚特性に配慮した青色のフィルターを取り入れ、基本用語の反復学習ができるよう工夫されている。(1年p.55)</p> <p>○別冊「マイノート」に学習内容の確認問題や基本問題、応用問題が掲載され、家庭での自学自習ができるよう工夫されている。</p>	<p>○東北地方太平洋沖地震のデータを使う実習を設けている。(1年p.63)</p> <p>○紙面右端に「生命」、「地球」、「物質」、「エネルギー」の4つの概念を明記し、系統性を意識して3年間の学習ができるように工夫されている。</p>	<p>○観察・実験が精選されている。さらに、学習が深まるように、「ためしてみよう」や「図示実験」等、発展的な実験が例示されており、時間があれば取り組めるようになっている。(1年p.135,160)</p> <p>○本文を見開きの中央部に、図や写真資料は両脇と下部に配置するという紙面構成になっており、読みやすくなるよう工夫されている。(1年p.148)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
G	<p>○「さまざまな音楽文化」というテーマでは、表現と鑑賞を関連させ、日本と世界のつながりを意識できるよう工夫されている。(1年p. 16-25, 40-47)</p> <p>○創作の指導事項に応じて「旋律をつくる」「音楽の構成やまとまりを工夫する」ことが系統的に学習できるよう配慮されている。(2・3年下p. 40, 46)</p>	<p>○「歌のアルバム」では、幅広いジャンルを取り上げ、多様な楽曲を通じて学習活動に取り組むことができるように配慮されている。(全学年p. 66-80)</p> <p>○日本と他国の音楽文化の共通点や相違点を探る教材がまとまりをもって配置されている。(1年p. 46 2・3年上 p. 40)</p>	<p>○鑑賞では、楽譜と楽器の写真を併記することで、音とともに視覚的に楽曲の構成をとらえられるように工夫されている。(1年P. 49-51)</p> <p>○「ポピュラー音楽図鑑」では、幅広い音楽ジャンルが紹介され、鑑賞と関連付けて取り扱うことができるよう、参照ページが示されている。(2・3年上P. 58-61)</p>	<p>○全学年「音のスケッチ」で創作の学習内容と具体的な活動が示され、創作の学習を段階的に行うことができるよう配慮されている。(1年p. 52, 56, 60)</p> <p>○「郷土の伝統ある音楽文化にふれる喜び」として、日本各地の中学生の活動が紹介されている。(2・3年上p. 52-53)</p>	<p>○「どんな特徴があるかな？」では、音楽を形づくっている要素について分かりやすく示されており、教材と関連付けて確認できるよう配慮されている。(1年p. 62, 2・3年上p. 56, 下p. 48)</p> <p>○鑑賞では、言語活動を取り入れた学習活動例を示したり、比較聴取教材を設けたりするなど、知覚・感受を深めることができるよう工夫されている。(2・3年下p. 24-27)</p>	<p>○教材に関する用語や記号がページ右側に示され、楽典のページで確認できるよう工夫されている。(1年p. 15, 84)</p> <p>○「私たちのくらしと音楽」では知的財産権や音楽療法などが紹介され、くらしと音楽との関連について考えることができるよう配慮されている。(2・3年下p. 50-53)</p>	<p>○教材の左側に縦書きで「活動のポイント」が示され、指導事項と〔共通事項〕との関わりを確認しながら学習活動を進めることができるよう配慮されている。(2・3年上p. 6)</p> <p>○「音楽の要素を捉えながら」「さまざまな音楽文化」「歌い合わせ聴き深める喜び」の3つのまとまりで構成され、題材のつながりを意識しながら学習が進められるよう配慮されている。(全学年目次)</p>
H	<p>○創作の学習では、学習の手順を簡潔に示すとともに、鑑賞、歌唱との関連を図りながら学習ができるよう配慮されている。(1年p. 44, 46, 48)</p> <p>○「心通う合唱」では中学生の声域に配慮した混声三部合唱が多く取り上げられている。(1年p. 58-75, 2・3年上p. 60-76, 下p. 56-72)</p>	<p>○「音楽学習MAP」では、学習の支えとなる〔共通事項〕が「学習の窓口」に示され、それぞれの楽曲で焦点化して取り扱う事項が確認できるよう配慮されている。(全学年p. 2, 3)</p> <p>○伝統音楽について幅広いジャンルから教材を選択するとともに、創作との関連を図ったり音環境という観点から取り扱ったりできるよう工夫されている。(1年p. 40-49, 口絵3, 4)</p>	<p>○伝統芸能や民謡などは聴いてまねて歌う(唄う、謡う)学習が取り入れられ、興味・関心をもって音楽の特徴を理解することができるよう配慮されている。(1年p. 46, 2・3年上p. 44, 下p. 42)</p> <p>○世界や日本の代表的な音楽祭やホール、劇場などが大きな写真で紹介され、興味・関心が高められるよう配慮されている。(全学年口絵1, 2)</p>	<p>○「ここが分かればGrade up!」は、学習内容を確認することができるとともに、音楽表現の創意工夫をする上での視点となるよう配慮されている。(2・3年上p. 10, 17, 26)</p> <p>○表現したいイメージをもって構成を工夫しながら創作する活動を個人やグループで行うことができるよう、学習内容や手順が分かりやすく示されている。(2・3年上p. 30-31)</p>	<p>○「心通う合唱」では、タイトルの横に曲の特徴や歌う際のポイントを〔共通事項〕と関連させながら簡潔に示し、全体像をとらえたいうえで工夫して歌えるよう配慮されている。(2・3年下p. 56-71)</p> <p>○曲想の異なる3つの曲を根拠をもって批評し、お互いに伝え合う活動ができるよう工夫されている。(2・3年下p. 30-31)</p>	<p>○口絵には我が国や諸外国の音楽の基礎的な事項が豊富な写真で示され、理解を深める工夫がされている。(2・3年下口絵1-9)</p> <p>○音楽に関する知的財産権やインターネット上における音楽利用についてQ&Aの形で解りやすくまとめられている。(2・3年下p. 50-51)</p>	<p>○教材名の上下に目標と具体的な活動内容を示すとともに、「音楽学習MAP」に示した学習の窓口を加えることで〔共通事項〕との関連を確認しながら学習できるよう配慮されている。(1年p. 32)</p> <p>○小学校で学習した日本の歌が混声合唱に編曲され、地域との交流会や行事等で活用するなど、小学校と中学校の学びの関連を図る工夫がなされている。(1年p. 54, 2・3年下p. 54)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【音楽（器楽）】No. 1

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
G	<p>○前半「演奏の仕方を身につけよう」で基礎的な知識や技能を習得し、後半「合わせて演奏しよう」で合奏曲を通して奏法や楽曲の特徴を感じ取ることができるよう、段階的に取り組める工夫がされている。</p> <p>○各楽器ごとに基礎的な技能と楽曲が関連付けて配置されており、楽曲の演奏を通して技能が習得できるよう配慮されている。(p. 36, p. 51-53)</p>	<p>○各楽器の導入部分では、それぞれの楽器の基礎的な知識や奏法について、写真やイラストを使い簡潔にまとめられている。(p. 40-44)</p> <p>○曲想が異なるボディパーカッションの教材が取り上げられており、曲想の違いを感じ取ることができるよう配慮されている。(p. 92-93)</p>	<p>○巻頭と巻末にある「With My Heart」では、第一線で活躍する演奏家からのメッセージが掲載され、音楽への関心を高めることができるよう配慮されている。(巻頭口絵①, p. 98)</p> <p>○三味線の絃の張り方や横笛を手作りするための設計図が紹介されており、楽器の仕組みに興味・関心をもつことができるよう配慮されている。(p. 42, 49 ①②)</p>	<p>○Let's PlayとLet's Tryでは、各楽器の特徴を生かした合奏教材がクラシック、ポピュラー、民謡などから幅広く取り上げられており、実態に応じて選曲できるよう配慮されている。(p. 64-93)</p> <p>○「日本の楽器と音楽」が時代に沿って写真と解説によりまとめられ、伝統文化への理解を深めることができるよう配慮されている。(p. 48)</p>	<p>○リコーダーのトリル奏法やギターのカブラチュア譜が紹介されており、生徒や各学校の実態に応じて学習を深めることができるよう配慮されている。(p. 18, 28-29, 78-79)</p> <p>○同じ楽曲で二種類の合奏曲が示され、合わせて演奏する活動に幅広く取り組むことができるよう工夫されている。(p. 34-35, 80-81)</p>	<p>○ギターのダイアグラムに対応した写真や五線譜に対応した鍵盤図を示すことにより、コードを視覚的に捉えることができるよう配慮されている。(巻末口絵③④)</p> <p>○アルトリコーダーの基礎練習曲にコードネームが示され、他の楽器とのアンサンブルができるように配慮されている。(p. 6, 8)</p>	<p>○幅広いジャンルの楽曲が掲載されており、学校や生徒の実態に応じて選曲できるよう配慮されている。</p> <p>○和楽器の特性をいかしたアンサンブル教材が複数取り上げられ、発展的な学習を展開できるよう工夫されている。(p. 80-87)</p>
H	<p>○前半の各楽器の学習では生徒の実態に合わせて基礎的な技能が習得できるよう、平易な楽曲が扱われており、基礎・基本の定着を図るよう構成されている。</p> <p>○「ここが分かればGrade up!」では身に付けた力をもとに、曲想や全体の響きを考えて音楽表現の工夫をしたり、曲の構成を考えて創作をしたりできるように配慮されている。(p. 51, 53, 55)</p>	<p>○各楽器の導入部分では、それぞれの楽器の基礎的な知識や奏法について、写真やイラストを使い簡潔にまとめられている。(p. 32-36)</p> <p>○「音楽学習MAP」では学習の支えとなる「共通事項」が「学習の窓口」に示され、それぞれの楽器や楽曲で焦点化して学習する内容が確認できるよう配慮されている。(p. 2)</p>	<p>○「音を聴いて確かめよう」では各楽器の音色や響きに焦点を当てて特徴を理解することができるよう配慮されている。(p. 7)</p> <p>○「楽器を知ろう」や「和楽器こぼれ話」では楽器にまつわるコラムが記されており、興味・関心を高められるよう配慮されている。(p. 3, 25)</p>	<p>○和楽器の演奏に関するだけでなく、姿勢や身体の使い方、礼儀について解説されており、我が国の伝統や音楽文化を理解できるよう配慮されている。(p. 26)</p> <p>○アンサンブル教材では「共通事項」を視点として演奏のポイントが示されている。(p. 56-85)</p>	<p>○アンサンブルセミナーは、アーティキュレーションの工夫やパートの役割、曲の構成といった演奏の視点が示されており、創意工夫しながら段階的に活動できるよう配慮されている。(p. 50-55)</p> <p>○箏を使った旋律創作の手順の例が示されており、創りたい音楽のイメージをもち、習得した奏法を使いながら創作できるよう配慮されている。(p. 31)</p>	<p>○演奏法を具体的に捉えられるようコマ撮りした写真が用いられ、身体の使い方が理解できるよう配慮されている。(p. 30, 40)</p> <p>○ラテンパーカッションや合奏で使用する打楽器の基本的な奏法や扱い方が写真とともに分かりやすくまとめられている。(p. 46-49)</p>	<p>○教材数が精選されており、基礎・基本の定着を図ることができるよう配慮されている。</p> <p>○各楽器の導入において鑑賞曲を紹介することで、各楽器の音色に対するイメージや、奏法に興味・関心をもつことができるよう工夫されている。(p. 3)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
D	<p>○2・3年生を1冊にまとめ、1題材の中で基本的な内容と発展的な内容を盛り込み、生徒自身が下学年の学びを深めることができるような内容となっている。</p> <p>○題材ページの最後に自己評価ができるよう評価の観点と関連させた「ふりかえり」が示されている。</p>	<p>○鑑賞から表現、そして鑑賞へと展開する題材の構成とすることで、表現と鑑賞の一体化がなされるよう工夫されている。</p> <p>○1つの題材を様々な表現方法で掲載し、学校や生徒の実態に合わせて題材を選択しやすいような構成となっている。(2・3年p.70-77)</p>	<p>○様々な職業人の声を掲載し、美術の学びが多様な職業に活かされることを示すことで、美術に対する興味・関心が高まるよう工夫されている。(2・3年p.10)</p> <p>○制作の過程が段階的に示され、見通しをもって取り組めるような工夫がされている。(1年p.23, 2・3年p.37)</p>	<p>○生徒が普段使っているものと日本の伝統的な作品を同じ使い方で示すことで、生活の中の美術文化が身近に感じられるよう工夫されている。(1年p.42-43)</p> <p>○言語を通じた発想や構想を深める手立てが示されている。(2・3年p.30, 71)</p>	<p>○「美しさの交流」では、美術を通じた他学年との学びの交流を掲載し、全校で学習に取り組む手立てが示されている。(1年p.46-47)</p> <p>○鑑賞のきっかけとして「問いかけ」を設定し、鑑賞するポイントや授業の導入として示すことで、自ら考えながら作品を見ることができるようになっている。(1年p.27, 2・3年p.28)</p>	<p>○見開きページを用いたり、90度回転させたり、右から左へ見ていくなどのレイアウトの変化を設け、生徒が楽しんで学習できるよう工夫されている。</p> <p>○目次には評価の観点そのものが示され、各題材の振り返りの視点が明確になっている。</p>	<p>○各学年の巻頭に、美術で培った力をこれからの生活に活かすことを示し、美術が社会に役立てられていることを伝え、より主体的に学習できるように工夫されている。</p> <p>○1つの表現題材を様々な表現方法で掲載したり、制作と鑑賞の関連をもたせたりするなど、様々な題材設定ができるよう配慮されている。(2・3年p.24-27)</p>
J	<p>○「学習を支える資料」のページを充実させた内容となっている。</p> <p>○表現題材を4ページに渡って掲載し、図版や関連題材を多く掲載しながら生徒の視点で活動のプロセスを追った提示の仕方となっている。(1年p.8-11, 2・3年p.26-29)</p>	<p>○「特別展示室」では同じ題材を彫刻と絵画で表現した作品を鑑賞することで、表現方法によって多くの良さや美しさを発見することにつながっている。(1年p.22-27)</p> <p>○題材ごとに「目標」が示され、チェックしながら生徒が自分で学習を振り返ることができる工夫がされている。</p>	<p>○美術作品をくらしの中で活かすことができる工夫が具体的に示されている。(2・3年p.6-7)</p> <p>○キャラクターやお菓子のパッケージデザインなど、生徒が身近に感じる題材が設定されている。(2・3年p.58-59, 68-69)</p>	<p>○平田の一式飾りや県内作家の作品が掲載され、題材と関連させて、地域の伝統文化をより身近に感じることができる。(1年p.19, 2・3年p.35)</p> <p>○美術館の取組を紹介し、鑑賞の機会を提供したり、多様な文化・歴史・感性の存在を知らせたりするという美術館の公益性に気づくよう工夫されている。(1年p.66-67, 2・3年p.96)</p>	<p>○「トピックス美術史」は、美術史年表と関連させながら美術史用語を説明し、美術文化への知識・理解が深まるよう工夫されている。(2・3年p.92-98)</p> <p>○巻末の「学習を支える資料」の中に〔共通事項〕の視点が掲載され、生徒が必要なときに参考にできるよう配慮されている。(1年p.60-62, 2・3年p.84-85)</p>	<p>○現在活躍している作家のスケッチブックや制作風景を掲載し、創作活動に対する興味を喚起したり発想や構想をしたりするうえでの手立てとなっている。(1年p.46-47, 2・3年p.78-79)</p> <p>○全題材の目標の下に〔共通事項〕を囲みで示し、意識して学習が進められるよう工夫されている。</p>	<p>○図版や関連題材を多く掲載しながら、作品の構想から制作の過程を生徒の視点で示し、活動の見通しがもてるよう工夫されている。(2・3年p.11)</p> <p>○グループで話し合いながら作品を制作したり発表したりする活動や、自身の作品に対する思いを言葉にして添えたりする活動が設定されている。(2・3年p.24, 52-53)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【美術】No. 2

発行会社	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
○	<p>○2・3年を分冊としており、上を基礎的な内容、下を発展的な内容として位置付けている。</p> <p>○「鑑賞との出会い」として鑑賞の視点を取り上げ、3年間を見通した鑑賞の考え方を示している。(1年p.18-19)</p>	<p>○表現と鑑賞の一体化を図るため、関連する内容が「参照」ページとして掲載されている。(1年p.24, 2・3年上p.45)</p> <p>○各巻の「教科書美術館」では、同じテーマ等で制作された作品を比較して話し合うことで、鑑賞の視点を身に付ける工夫がされている。</p>	<p>○掲載作品の多くには「作者の言葉」として作家や生徒の作品解説を掲載し、発想や構想のヒントとなるよう示されている。</p> <p>○浮世絵が原寸大で和紙に印刷されており、日本美術を視覚と触覚を働かせて鑑賞できるように工夫されている。(2・3年上p.26-27)</p>	<p>○映像メディアを用いた表現方法や作品完成までのプロセスでの扱い方をなどを掲載している。(1年p.12-13, 2・3年上p.8-9)</p> <p>○社会を豊かにするための作品やデザイナーの作品・考え方等を掲載し、美術に関する職業意識が高まるよう工夫されている。(1年p.32-33, 2・3年上p.38-39, 下6-7)</p>	<p>○巻末には表現や鑑賞に役立つ資料が掲載され、基礎的な事項を振り返ったり、制作に役立てたりできるよう配慮されている。</p> <p>○美術を体験する場や美術館など、生活の中で美術とのつながりを発見できるような資料が掲載されている。(2・3年下p.50)</p>	<p>○日本と世界の文化が相互に影響を受けていることと文化の交流が分かりやすくまとめられている。(2・3年上p.50-)</p> <p>○学習のまとめ方など美術科で学んだ内容を他の教科等で生かす例が示されている。(1年p.18-19, 2・3年上p.41-42, 下p.24-29, 39)</p>	<p>○A4版を拡大して横幅を広げ、情報量を増やしたり作品を大きく掲載したりすることで鑑賞活動をより充実して行えるように配慮されている。</p> <p>○全体を3冊構成として2・3年を分冊にしており、上を基礎的な内容、下を発展的な内容として位置付けている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○章扉に関連する小学校での既習内容と高校での学習内容が示され、小・中・高等学校を通じた学習の系統性を重視した内容で編成されている。(p. 5, 45)</p> <p>○学習のヒントやポイントを伝えるキャラクターが理解を促し、学習のねらいを把握しやすいよう配慮されている。(p. 70)</p>	<p>○基礎的・基本的知識の定着から、実生活での活用力まで、各時間の学習が円滑に流れるようレイアウトが工夫されている。(p. 69)</p> <p>○各章の終末に「確認の問題」「活用の問題」「学習のまとめ」を設け、学習内容が確実に定着するよう工夫されている。(p. 90-91)</p>	<p>○各ページ下にクイズが設けられ、保健体育に関連した事柄への関心が広がるよう工夫されている。(p. 13, 15)</p> <p>○学習内容に関連する読み物資料を掲載し、興味・関心を高め、学習内容が深められるよう工夫されている。(p. 19, 39)</p>	<p>○各章の終末に生命の尊重、安全などの今日的な健康課題に取り組む資料が掲載され、探究的な学習ができるよう工夫されている。(p. 28-29)</p> <p>○各時間の「考えてみよう」では、自分の意見をまとめて発表したり、話し合ったり、記述したりする活動を通して学習内容を活用して思考力・表現力を高められるよう配慮されている。(p. 25, 27)</p>	<p>○「生かそう」では、自分たちの生活や身近な地域について考えていくよう促し、家庭や社会生活に関わっているよう配慮されている。(p. 77, 161)</p> <p>○「他教科マーク」により他教科とのつながりを示し、教科相互の関連を図り、系統的、発展的な指導が可能となっている。(p. 112, 144)</p>	<p>○巻頭には躍動感ある口絵が多く用いられ、スポーツ選手だけでなくスポーツや健康を支える人に目を向けられるよう工夫されている。(口絵1-8)</p>	<p>○学年別に保健編、体育編で構成され、各学年の学習内容が明確になり、見直しをもって学習に取り組めるよう配慮されている。</p> <p>○各時間の学習の冒頭にキーワードをチェック欄とともに示し、巻末にそれらすべてに対応した解説が掲載されている。(p. 165)</p>
B	<p>○関連した内容を学習するページを示す「リンク」欄が設けられ、学習内容のつながりを意識した総合的な学習ができるよう配慮されている。(p. 21)</p> <p>○生涯にわたり豊かなスポーツライフを送る必要性や楽しさが、写真等の資料により理解しやすくなっている。(口絵3-4)</p>	<p>○各章の扉には中学生の写真とともに、それぞれの章での学習内容が示され、見直しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。(p. 45)</p> <p>○各時間の学習において、課題の把握、導入、習得、活用まで、分かりやすく進められるよう構成されている。(p. 46)</p>	<p>○学習内容と関連の深い話題や読み物が「ミニ知識」や「トピックス」として紹介され、学習を広げたり、深めたりできるよう工夫されている。(p. 55)</p> <p>○学習内容と関連した写真やグラフ等をまとめて掲載する「資料」のページを設け、必要なデータが参照しやすいよう配慮されている。(p. 90-91)</p>	<p>○災害の写真について紙面を大きく使って示し、日常から実践できる具体的な備えや行動について進んで考えていけるよう配慮されている。(p. 96-99)</p> <p>○喫煙、飲酒など危険な行動を避けるための明確な断り方を自ら考えさせることで、ライフスキル及びコミュニケーションスキルを養えるようになっている。(p. 129)</p>	<p>○各学年の章末に「学習のまとめ」として、重要な言葉についての解説や要点についてまとめ、振り返りができるようになっている。(p. 146-147)</p> <p>○理科や社会科との関連や総合的な学習の時間で取り上げることができるよう内容が掲載されている。(p. 82-p. 83)</p>	<p>○オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高め、幅広い理解ができるよう、オリンピック・パラリンピックの歴史の解説や写真等が掲載され、詳しく説明されている。(口絵1-2, p. 38-39, 43)</p>	<p>○A B変型のワイドなつくりにより、学習内容を補うグラフや表などが多く配置され、本文の内容が理解しやすいよう配慮されている。(p. 72)</p> <p>○大きく色分けされた爪により体育編や保健編、内容ごとのまとまりが把握しやすいよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
L	<p>○飲酒、喫煙等の内容は、見開きの4ページで構成され、その項目の学習を補完する情報や話題も具体的な例によって示されている。(p. 126-133)</p> <p>○前半に体育編、後半に保健編を位置づけ、そで書きの参照ページにより、体育と保健の関連性を高められるよう工夫されている。(p. 27, 45)</p>	<p>○学習の目標を吹き出しによって示し、章での学習内容の見通しが持てるよう工夫されている。(p. 41, 85)</p> <p>○各時間の学習の冒頭に「Question」を設け、各時間の導入時に生徒の興味・関心を高める工夫がされている。(p. 80)</p>	<p>○口絵では国際的なスポーツ大会で活躍する日本人選手のほか、生涯スポーツへの道筋が写真で示され、スポーツへの多様な関わりを喚起するよう工夫されている。(口絵1-4)</p> <p>○「コラム」を掲載し、興味・関心を高める話題や昨今の問題が多く取り上げられている。(p. 28, 89)</p>	<p>○「Challenge」のページでは、学んだことを実際の場面に当てはめて考える課題を設け、教科書に解答を書き込むことで、学習内容を生活場面で生かせるよう工夫されている。(p. 29, 91)</p> <p>○県の課題である「体力の向上」についてその要素を詳しく示し、体力を高める運動例がわかりやすく示されている。(p. 16-17)</p>	<p>○ページ下に学習内容と関連する機関のウェブページのURLが紹介されており、自ら調べ学習が取り組めるよう配慮されている。(p. 65, 97)</p> <p>○考える、話し合う、調べる、まとめる、発表するなどの作業学習を「Try」で示し、学びを深め、発展させることができるよう工夫されている。(p. 111, 121)</p>	<p>○教科書に使用されている用語を、吹き出しを用いて具体的な例を上げ丁寧に説明し、教科書の使い方がわかりやすく示されている。(p. 1-2)</p>	<p>○前半に体育編、後半に保健編を位置づけ、そで書きの参照ページにより、体育と保健の関連性を高められるよう工夫されている。(p. 27, 45)</p> <p>○本文の背景を薄黄色とし、注や図表などの補足的な部分との区別がしやすく、わかりやすい紙面構成になっている。(p. 52)</p>
P	<p>○基礎的・基本的な内容と区別して、「もっと広げる深める」「探求しようよ」が配置され、発展的に学習していけるよう工夫されている。(p. 50-53)</p> <p>○各章の扉では、小・中・高それぞれの段階での学習内容を示し、見通しが持てるように系統性を重視した内容で編成されている。(p. 34)</p>	<p>○各時間の冒頭に「学習の目標」と「キーワード」の欄が設けられており、興味・関心をもち、見通しをもつて学習ができるよう配慮されている。(p. 36)</p> <p>○各章に学習内容に関連する人物の名言や功績、職業や資格などを紹介し、学習内容と社会との関連を実感できるようにしている。(p. 57, 85)</p>	<p>○資料やコラム、口絵等で身近な事例を取り上げ、興味・関心が高まるよう工夫がされている。(p. 28-29)</p> <p>○各ページには補足的な内容や発展的な内容が取り扱われている「情報サプリ」の欄が設けてあり、保健体育への興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 18-19)</p>	<p>○各時間に、話し合いや記述、発表などの言語活動が取り入れられ、特に重要となるものには「言語」「協働」と示されている。(p. 103, 109)</p> <p>○食生活と健康について、具体的な例を示し、わかりやすく説明されている。(p. 4-5)</p>	<p>○発展的な学習が行えるよう、その時間に関する具体的な課題が「探求」として示されている。(p. 65, 137)</p> <p>○ユニバーサルデザインやコミュニケーションについての内容が掲載され、総合的な学習の時間などとの関連が図られるよう配慮されている。(p. 23, 125)</p>	<p>○オリンピックについて、競技者だけではなく、それを支えた日本の技術者を紹介するなど、様々な視点から学べるように工夫されている。(p. 175-178)</p>	<p>○対人関係能力や協働する力など、これからの時代に求められる資質、能力の基礎を育てる内容が「協働」マークで示されている。(p. 73, 117)</p> <p>○章のまとめとして「用語の確認」「基礎の完成」「活用の問題」「生活への活用」と段階を踏んだ問題が掲載されている。(p. 126-129)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【技術・家庭（技術分野）】 No. 1

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○内容ABCにおいて設計・計画の後に、基礎技能が集約され、必要な時に調べやすいように爪が設けられている。(p.54-73)</p> <p>○ガイダンスにおいては、社会におけるものづくりの開発過程と同様に、PDCAサイクルを取り入れた内容としている。(p.12-17)</p>	<p>○実習例が見開き2ページで示されており、難易度をマークで表している。(p.74-77)</p> <p>○各内容の終末に「学習のまとめ」が設けられ、「大切な用語」が示されている。(p.146-147)</p>	<p>○各章の冒頭に「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合おう」「やってみよう」が示してあり、学習の導入時に興味・関心を喚起する工夫がされている。(p.20,22)</p> <p>○各ページの下段にQ&Aコーナーが設けてあり、学習意欲を喚起する工夫がされている。</p>	<p>○各内容の技術を「社会、環境、経済」の三側面から評価できるよう、ワークシート例が掲載されている。(p.84-89)</p> <p>○ものづくりの構想を具体化するために、吹き出しを使用し、考える視点が示されている。(p.40-43)</p>	<p>○自主的に学習ができるよう、「学習のまとめ」において、「生活にいかそう」のように課題が設けられている。(p.191)</p> <p>○巻末資料として、「コンピュータの基本操作」が掲載されている。(p.260-270)</p>	<p>○防災・減災に活かせる学習内容を総合的に「防災手帳」としてまとめている。(巻末)</p> <p>○全内容の最後に、「技術分野の学習を終えて」という章を設け、学習内容を振り返り、個々の考えを記入できるように構成されている。(p.256-259)</p>	<p>○AB版のため、図表や写真が大きく数多く掲載され、資料の特徴や段階的な変化を細部まで確認できる。(p.24-25,34-35)</p> <p>○学習内容と他教科との関連を意識し、「環境、消費者、防災」等のマークが示されており、学習の広がり意識されている。(p.1)</p>
C	<p>○実習例をその製作過程に沿って提示し、基礎技能を説明している。(p.36-47)</p> <p>○ガイダンスを序章として示し、社会で活用されている製品等を例に示した内容としている。序章(p.2-8)</p>	<p>○一つの実習例について複数ページを割り、多くの写真を使用し説明している。(p.48-55)</p> <p>○各内容の終末に「まとめ」が設けられておに示した内容としている。(p.90-91)</p>	<p>○各章の冒頭に学習の概要を示し、社会における関連技術の写真掲載している。(p.56,94)</p> <p>○工程表や育成計画表の中で、作業をうまくこなすための「コツ」が示されている。(p.54,55)</p>	<p>○内容Cの評価・活用場面、内容Dに関連する課題を提示するなど他の内容と関連付けた課題設定がなされている。(p.198)</p> <p>○ものづくりの構想を具体化するために、使用目的や強度、加工方法といった設計要素ごとに、考える視点が示されている。(p.63-69)</p>	<p>○自主的に学習ができるよう、家庭や地域で取り組める「調べよう」が設けられている。(p87,198)</p> <p>○巻末資料として、学習した知識・技術が今後の生活で生かされるよう、様々な工具や野菜の栽培概要を示している。(p.262-263,266)</p>	<p>○巻末に「技術にかかわるマーク」という口絵を設け、学習と生活をつなげる配慮がされている。(巻末口絵④)</p> <p>○各章の「考えよう」において、自分の考えをまとめる場面が設定されている。(p.89,108,198)</p>	<p>○図・表・写真などの資料、本文のレイアウトが統一され、学習の流れがつかみやすくなっている。(p.36-53,p.118-119)</p> <p>○「材料と加工」や「生物育成」において、製作品や実習例を章の始めに示し、学習の流れがつかみやすくなっている。(p.24-27,30-31)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【技術・家庭（技術分野）】 No. 2

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
D	<p>○製作工程に沿って、基礎的な技能を説明するとともに、「参考」で発展的な内容が示されている。(p. 57, 59)</p> <p>○ガイダンスでは、「知る・できる・考える」の観点から社会の技術を考えられるよう配慮するとともに、小学校の学習とのつながりを表記している。(p. 4-5)</p>	<p>○実習例を1ページで示し、部品表が掲載されている。(p. 47-52)</p> <p>○学習の節目で「学習の目標」を受けた「振り返り」があり、各内容の終末に「学習のまとめ」がある。(p. 87, 90)</p>	<p>○各章の冒頭に「考えてみよう」「調べてみよう」が示してあり、興味・関心を喚起する工夫がされている。(p. 26-27)</p> <p>○ページ下段に豆知識のコーナーを設け、学習意欲を喚起する工夫がされている。また、右肩には、各内容で使用する道具が写真で示してある。</p>	<p>○各内容の技術を「社会、環境、経済」の三側面から評価できるよう章立てをするとともに、内容の巻末に「探究」として資料やワークシート例が掲載されている。(p. 84-91)</p> <p>○ものづくりの構想の具体化を図るために、検討項目、設計要素ごとに視点をまとめてある。(p. 24-42)</p>	<p>○自主的に学習ができるよう、学習内容が社会で活かされている例が「参考」で示されている。(p. 85, 130-133)</p> <p>○巻末資料として、「コンピュータの基本操作」が掲載されている。(p. 250-261)</p>	<p>○各内容の冒頭に内容に関連する歴史年表が掲載されている。(p. 20-21)</p> <p>○全内容の最後に、「技術分野の出口」という章を設け、学習内容を振り返り、個々の考えを記入できるよう構成されている。(巻末p. 4)</p>	<p>○各章において学習の目標と振り返りが設けられており、学習の見通しがもて、自己評価ができるようになってきている。(p. 33)</p> <p>○学習内容を図や表で簡潔にまとめてあり、それぞれの特徴が明確に示されている。(p. 33, 105, 109)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【技術・家庭（家庭分野）】 No. 1

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○生徒のつまづきやすい調理や製作のポイントが「基礎技能」に集約され、必要な時に調べやすいように爪が設けられている。 (p. 52-57)</p> <p>○「生活の課題と実践」では、進め方、課題の決め方、まとめと発表の仕方が具体例やヒントを挙げて詳しく説明されている。 (p. 252-261)</p>	<p>○内容BCADの順に構成され、衣食住の内容から学び始める。「生活の課題と実践」は最後にまとめて掲載されている。(p. 1-2)</p> <p>○記述等による「まとめよう」や自己評価及び確認問題の「学習のまとめ」が設けられ、学習内容を積み上げながら定着を図る工夫がされている。 (p. 187, 222-223)</p>	<p>○各内容や各章の学習内容の流れや関係性及び小学校の学習内容を、矢印等を用いて見開きで示し、見通しや関心をもって学習が進められるよう配慮されている。(p. 100-103)</p> <p>○消費者トラブルや消費者の権利と責任について、生徒に身近な具体例とイラストで説明されている。(p. 234-239)</p>	<p>○家庭分野の学習の進め方として、問題を解決するための一連の過程を示し、「生活の課題と実践」の進め方と統一を図っている。 (p. 14-15, 252-253)</p> <p>○調理実習例の手順がすべて写真付き6段階の横の流れで記載され、調理手順の計画や調理上の変化の理解がしやすくなっている。 (p. 60-61, 68-69)</p>	<p>○乳児の特徴やフェアトレードなど、発展的な学習が「発展」と明示され、各内容に一つずつ設けられている。 (p. 220, 221, 241)</p> <p>○家庭での実践課題が「生活に生かそう」で提案され、「学習のまとめ」で生徒自らが考え、「生活の課題と実践」の取組を促すよう工夫されている。 (p. 119, 173)</p>	<p>○家庭分野の学習でよく使われる用語が「言葉のページ」に集約・解説されている。 (p. 270-271)</p> <p>○左利きの用具や食品の扱い方の写真が掲載されている。(p. 53, 124)</p>	<p>○AB判のため、図表や写真が大きく数多く掲載され、資料の特徴や段階的な変化を細部まで確認できる。 (p. 60-61)</p> <p>○自立に必要な基礎・基本に重点をおいた学習課題が設定され、生活の課題の解決に向けた学習過程や手立てが示されている。 (p. 187, 222-223)</p>
C	<p>○導入ワーク「Q」や図表・写真を紙面の上半分に配置し、本文で図表・写真の意味を説明したり、例を挙げたりしながら詳しく解説している。(p. 240-241)</p> <p>○各章の最初に「自立度チェック」が設けられ、自己の課題に気付かせ、学習内容を示唆されるよう配慮されている。(p. 30-31)</p>	<p>○内容ABCDの順に構成され、各内容の最後に「生活の課題と実践」が掲載されている。(p. 2-3)</p> <p>○各項目の「キーワードチェック」及びキーワードの確認と学習を生活に生かすための実践を記述する「学習の振り返り」が各内容の最後に設けられ、知識の定着を重視した構成になっている。 (p. 60-61)</p>	<p>○各章の導入には、学習内容につながる身近な物の実物大写真やクイズが掲載され、興味をもって学習を進める工夫がされている。 (p. 69, 173)</p> <p>○製作について、1つの実習題材例をアレンジした作品例が複数掲載され、学習意欲を喚起する工夫がされている。(p. 39, 217)</p>	<p>○「生活の課題と実践」では、進め方を吹き出し型のコメントにして、生徒の発達や思考の流れに沿った形で示している。(p. 62-67)</p> <p>○調理実習例が主食、主菜、副菜、汁物に分類して掲載され、組み合わせで献立を考えることができる工夫がされている。(p. 116-131)</p>	<p>○地域の伝統的な器や進化する衣服など、発展的な学習には、「発展」と明記され、各内容ごとに複数設けられている。 (p. 141, 191)</p> <p>○家庭や地域で取り組める「調べよう」が掲載されている。 (p. 49, 165)</p>	<p>○「生活の課題と実践」の事例においては、技術分野と連携して学習できるよう配慮されている。(p. 144-145)</p>	<p>○導入のワーク、図表・写真などの資料、本文のレイアウトが統一され、学習の流れがつかみやすくなっている。</p> <p>○自立度チェックやクイズなどにより自己の課題や興味・関心を喚起し、確認問題等により、生活の自立に必要な基礎・基本について定着を図る構成になっている。 (p. 68-69, 142-143)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

【技術・家庭（家庭分野）】 No. 2

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
D	<p>○内容ABCの最後には、環境に配慮した生活の工夫を考える「持続可能な社会をつくる」が設けられ、内容Dを内容ABCと関連させて扱う工夫がされている。(p. 207, 241)</p> <p>○「生活の課題と実践」では、探究方法を具体的に例示し、課題例が複数掲載されている。(p. 246-257)</p>	<p>○内容ABCDの順に構成され、「生活の課題と実践」は最後にまとめて掲載されている。(P.1)</p> <p>○各項目ごとに、学習目標を受けた自己評価と記述による「ふり返り」があり、各内容ごとに、自己評価及び気付いたこと・生活に生かしていきたいことを記述する「学習のまとめ」がある。(p. 49, 59)</p>	<p>○消費者トラブルの解決に向けた過程や消費者の権利と責任について、生徒に身近な事例のストーリーに沿って説明されている。(p. 226-227, 232-233)</p> <p>○全ページの右上に衣食住に関する写真やコメント等が掲載されている。</p>	<p>○家庭分野の学習の進め方として、生活の課題を解決するための一連の過程を示し、その過程でどのような言語活動に取り組むのかを「言語活動の充実のために」で、写真や例を用いて説明されている。(p. 8-9, 260-263)</p> <p>○「実験」の結果例を写真で示し、科学的な理解が進められるようになっている。(p. 103, 111)</p>	<p>○食品に含まれる成分を目で確かめる実験や災害時の食事など、発展的な学習には、「発展的な学習には、「発展」と明示され、各内容に複数設けられている。(p. 70-71, 140)</p> <p>○内容ごとに「探究」と明示された、学習内容を広げたり深めたりする資料が掲載されている。(p. 41, 222-223)</p>	<p>○食品と栄養素の関係と食品の概量と食品群別摂取量の目安が一目で確認できるように折込を設けている。(p. 72-74)</p>	<p>○写真と簡潔にまとめられた本文により、生活の自立に必要な基礎・基本の確実な習得を重視し、参考・発展等の区分を明確にして構成されている。</p> <p>○生活の課題の解決に向けた学習過程とそこで取り組む言語活動の例や意図が示されている。(p. 49, 59, 260-263)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○各学年の教科書の総ページ数及び「Unit」数は、1年151ページ11Unit、2年151ページ7Unit、3年151ページ6Unitである。</p> <p>○各Unitの題材や目標等の一覧表が掲載され、見通しをもって学習できるよう工夫されている。(全学年p.2-3)</p>	<p>○本編は「Unit」「Daily Scene」「Presentaion」の3部を組み合わせて学習し、習得から活用への流れを通じて、コミュニケーションの能力が養われるよう構成されている。(全学年p.2-3)</p> <p>○見開きの左側に本文と語句、右側に基本文・基本練習などを配した構成になっており、教科書に直接記入するスペースも十分にあり。</p>	<p>○学習した題材に関連する情報を紹介する「一言メモ」や「コラム」が随所にあり、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。(3年p.11,63)</p> <p>○「Daily Scene」では、電話や食事などの具体的な場面で使える表現を扱い、学習内容が身近に感じられるよう工夫されている。</p>	<p>○各パートの「Read and Think」のQ&Aでは、回答の記入欄を設け、書く力をつけていけるよう工夫されている。(2年p.11,13)</p> <p>○1年の「Speak& Write」で基本文型を応用した英作文の問題に取り組むことにより、学習内容を定着させる工夫がされている。(1年p.41,43)</p>	<p>○「学び方コーナー」では、辞書の使い方や発音のしかたなどが示してあり、主体的に学習する力が身につくよう工夫されている。(1年p.37,52,53,115)</p> <p>○全学年巻末にある「Bonus Word Box」に加えて、裏表紙の「Word Room」には身近に使える語句をジャンル別に示し、表現の幅を広げるよう工夫されている。</p>	<p>○例を参考にしながら詩を書く題材が扱われており、英語に親しみながら表現力をつけるよう工夫されている。(2年p.90-91)</p>	<p>○国際協力、伝統文化、環境、平和、福祉、職業などの幅広い内容を扱い、それぞれの内容について考えさせることができるよう工夫されている。(2年p.96,3年p.54-57,58)</p> <p>○「Presentation」ではモデル文に加えて別表現を使った複数の例文が示され、表現力を養うよう配慮されている。</p>
D	<p>○各学年の教科書の総ページ数及び「PROGRAM」「Reading」で構成される単元数は、1年151ページ11単元、2年151ページ12単元、3年143ページ9単元である。</p> <p>○1年「PROGRAM 1」で、見開き全面にアルファベットを3～4回書き込んで練習できるようにするなど、丁寧に文字指導ができるよう工夫されている。(1年p.18-19)</p>	<p>○見開き左側に基本文「Basic Dialog」や練習問題を、右側に本文を掲載し、新出の文構造を学習した後に運用の仕方を学ぶ構成となっている。</p> <p>○各単元後の「Power-up」では4技能から焦点化したものを取り上げ、学習内容を発展させた活動を行えるよう工夫している。</p>	<p>○題材に登場する国々や都市の位置を地図で示すことで、生徒の興味・関心を高めたり、題材への理解を深めたりするよう工夫されている。(2年p.19,47,76,97)</p> <p>○巻末資料の「単語と熟語」に、その単語にまつわる文化や言語についての知識を載せ、関心・意欲を引き出すよう工夫されている。</p>	<p>○各学年巻末に3年間の「できるようになったことリスト」を示し、英語学習の見通しと課題・振り返りの意図をもって取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○各学年とも2～4単元終えたところで「My Project」を配置し、思考力・判断力・表現力を身につけるための総合的・統合的な活動の機会を設けている。</p>	<p>○各学年とも単元間に「英語のしくみ」を設定し、学習内容を整理し、練習問題に取り組むながら基礎基本を身につけることができるよう工夫されている。</p> <p>○各学年に辞書の活用を示したページを設定し、「辞書を引く」「情報を読む」「使いこなす」という段階をおって学習できるよう工夫されている。</p>	<p>○1年巻末に添付された「アクションカード」を活用することにより、一般動詞の意味や用法の定着を図る工夫がされている。</p>	<p>○基礎・基本習得のための「Basic Dialog」とコミュニケーション能力習得のための「Power-up」や「My Project」が段階的に配置され、自ら発信する力を育むよう工夫されている。</p> <p>○人の生き方や平和の希求について扱い、それぞれの内容について考えられるよう工夫されている。(3年p.84,88)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
E	<p>○各学年の教科書の総ページ数及び「Lesson」数は、1年157ページ9Lesson, 2年163ページ8Lesson, 3年163ページ7Lessonである。</p> <p>○各「Lesson」に設けられた「Review」では、基本本文の復習や長文読解などを通して学習内容が定着するよう工夫されている。(2年p. 74-75)</p>	<p>○1年の最初の単元の導入で一般動詞likeを用いるなど、外国語活動から円滑に接続するように配慮されている。また、新出と既習の基本本文を対比させ、文型の違いを区別しやすくしている。(1年p. 20, 75)</p> <p>○各学年とも4つの「Chapter」にそれぞれ目標が設定され、「Chapter」内の「Lesson」の学習を通して目標が達成できるようになっている。</p>	<p>○「Braille」では、実物の点字を掲載し、実際に点字に触れることで生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。(1年p. 110)</p> <p>○2年で日本の昔話「泣いた赤おに」を取り上げたり、全学年で世界的に有名な英語の歌を楽譜付きで掲載したりして、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。</p>	<p>○各「Lesson」の終わりに「Review」を設け、Speaking, Listening, Reading, Writingのコーナーで、4技能の定着を確認するよう工夫されている。(2年p. 24-25)</p> <p>○「Chapter Project」では既習事項を使った表現活動に段階的に取り組み、4技能をバランスよく身につけるよう配慮されている。(3年p. 90-93)</p>	<p>○各学年の巻末付録に、「つづりと発音」について示しており、つづりと発音の関係を覚えることができるよう工夫されている。(1年p. 135, 2年p. 137, 3年p. 128)</p> <p>○「Word Tree」では、テーマに関連する語彙や言い方を複数紹介し、表現の幅を広げる工夫がされている。</p>	<p>○「Check It Out」の文法説明では、品詞ごとに色分けをしたり、日本語の語順と対比したりして、視覚的に理解を促すよう配慮されている。</p>	<p>○各「Chapter」の扉に学習を通してどんなことができるようになるか明示している。</p> <p>○各学年の各「Lesson」の最後に配置されている「Review」では、基本本文の復習問題や長文読解問題などを扱い、4技能をバランスよく身につけるよう工夫されている。</p>
F	<p>○各学年の教科書の総ページ数及び「Lesson」数は、1年159ページ9Lesson, 2年159ページ8Lesson, 3年159ページ7Lessonである。</p> <p>○基本本文導入のための「GET」の本文が短いため音読しやすく、全学年ブロック体で表記されている。</p>	<p>○「GET」の基本本文には、「現在完了(継続)」や「間接疑問」などの文法用語や意味が表示されており、文法事項を整理して学べるよう配慮されている。(3年p. 12, 90)</p> <p>○新出基本本文を習得する上で有効な言語材料が「Word Bank」にあり、「Practice」での活用を通して、基礎・基本を身につけることができるよう工夫されている。</p>	<p>○各「Lesson」の扉にはその単元の目標がテーマ性のある写真や絵とともに明記されており、見通しがもてるよう工夫されている。</p> <p>○「USE」の「Read」には、物語、コラム、メールなどの多様な英文を取り上げ、学習内容を活用につなげる配慮がされている。</p>	<p>○3年間の学習のしめくくりとして、英語とかわりながら働く人々や島根県出身のプロテニスプレイヤー錦織圭を題材として扱い、自分の将来と英語のかかわりを考えることができるよう工夫されている。(3年p. 108)</p> <p>○「Project」では、4技能が統合された活動に取り組むことで、学習内容が定着するよう工夫されている。</p>	<p>○「For Self-study」で、辞書の引き方(1年p. 86)や学習方法(2年p. 84, 3年p. 86)など、自主学習を行うためのヒントを紹介している。</p> <p>○付録には、発展的な読み物教材や文法、音の説明、ジャンル別の単語の一覧等が取り上げられ、学習内容を確かめたり深めたりできる工夫がされている。</p>	<p>○プレゼンテーションやディスカッションに焦点を当てた単元を設定し、表現力を高めるよう工夫されている。(2年p. 85-98, 3年p. 102-103)</p>	<p>○基本本文導入の「GET」では、全学年にわたって音読しやすい短い本文になっており、繰り返し読むことができるよう配慮されている。</p> <p>○国際理解、人権、福祉、環境、平和等の今日的な題材が取り上げられており、生徒の課題解決や社会貢献の意欲を高める内容になっている。(2年p. 23, 112, 3年p. 38, 70, 104)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

発行会社	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心を高める工夫	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
G	<p>○各学年の教科書の総ページ数及び「Lesson」数は、1年本冊143ページ別冊48ページ9Lesson、2年本冊143ページ別冊40ページ8Lesson、3年本冊143ページ別冊36ページ6Lessonである。</p> <p>○1年では身近な話題・文化比較、2年では環境・福祉・職業、3年では日本の伝統文化・世界で活躍する日本人など、各学年に応じたテーマが設定されている。</p>	<p>○各「Lesson」がHop, Step, Jumpの3段階のパートに分かれ、基礎から発展につながる構成になっている。各パートごとに学習の目標が明示されている。</p> <p>○「Lesson」を2～3終了したところでJumpの「Project」が設定され、4技能を統合した活動を行う構成になっている。(1年p. 48-49)</p>	<p>○アジアや北欧、アメリカなどの複数の国々を題材として取り上げ、興味・関心を高めるよう工夫されている。(2年p. 84, 92-99)</p> <p>○題材に過去の偉人の他、現在世界で活躍している日本人を複数取り上げ、生徒の興味・関心を高める内容となっている。(3年p. 60-67)</p>	<p>○巻末に3学年分の「Can-Do 自己チェックリスト」を掲載し、4技能別に到達目標や関連箇所を示し、目標や課題を確認できるようになっている。(全学年p. 142)</p> <p>○各学年「Jump」の「Project」は、まとまった量のつながりのある文章を書く指導へ発展できる内容になっている。</p>	<p>○各学年の巻末付録に辞書の引き方を紹介し、自主学习につながるよう工夫されている。</p> <p>○全学年に別冊が設けられ、本冊のページに対応させた新出語や基本文に関する問題が掲載され、赤色シートを用いて繰り返し復習できるよう工夫されている。</p>	<p>○1年巻末に折り込みでPCキーボードの図を示し、ローマ字入力でのタイピング方法が解説されている。</p>	<p>○本冊と別冊の2冊で構成され、別冊は授業での利用だけでなく、生徒自身で繰り返し復習できるように工夫されている。</p> <p>○巻末に3学年分の「Can-Do 自己チェックリスト」を掲載し、4技能別に到達目標や関連箇所を示し、目標や課題を確認できるようになっている。</p>
J	<p>○各学年の教科書の総ページ数及び「Unit」数は、1年167ページ11Unit、2年159ページ9Unit、3年151ページ7Unitである。</p> <p>○球技大会やバンド練習など中学生にとって身近な出来事を題材の中心にしなが、それらに関連付けて世界に目を向けるよう工夫されている。(1年p. 107-115)</p>	<p>○1年から3年までの各「Unit」の本文は、登場人物たちが中学校でのさまざまな出来事や経験を通じてともに成長していく一連の物語になっている。</p> <p>○各「Unit」の冒頭に聞き取り活動を設定し、「Unit」本文の概要を把握できるよう工夫されている。(1年p. 69)</p>	<p>○各パートの「Try It!」で取り上げる場面は、本文とつながりのある登場人物のやりとりに設定し、好奇心を喚起するよう工夫されている。(1年p. 123)</p> <p>○「Unit」本文は、中学生の様々な出来事や経験で展開されているので、ともに考え、共感しながら学習できるよう工夫されている。(1年p. 108-114)</p>	<p>○「CLIL」で他教科の学習内容について、英語を使って考え表現する学習が設定されている。(1年p. 88, 89 2年p. 44, 45 3年p. 34, 35)</p> <p>○各パートの上欄に音読回数チェック欄を設けたり、長文の読み物教材の最後に使用語の明記したりして、自分の取り組みを振り返られるよう配慮されている。(1年p. 30, 143)</p>	<p>○各学年の「Your Coach」で、辞書の使い方やまとまりのある文章を「読む」「書く」「聞く」力をつけるためのポイントが解説されている。</p> <p>○各学年の「Word Square」で様々なカテゴリーに関連する単語や語句を示し、自己表現活動の幅を広げるよう工夫されている。</p>	<p>○イラストを見て登場人物のセリフや心理を考えさせる場を設定し、コミュニケーション能力を育む配慮がされている。(1年p. 112, 2年p. 30)</p>	<p>○中学生の登場人物たちが日常生活の様々な経験をおして成長していく物語の構成になっているため、各場面を身近に感じながら学習を進めていけるよう工夫されている。</p> <p>○各「Unit」の冒頭の聞き取り活動をおして、「Unit」全体の概要を把握して学習に入ることができるよう工夫されている。</p>